

株式会社 ハーモニック・ドライブ・システムズ

Investors' Guide FY 2024

Year ended March 31, 2025

Leadership in Total Motion Control

2025年11月19日

基本方針

精密制御分野における「トータル・モーション・コントロール」にフォーカスし、技術・技能集団として進取の精神をもって世界の一流を目指し、如何なる環境の中でも勝ち抜くため、変化に強い体制の構築を目指します。

トータル・モーション・コントロールの概念図



当社は、以下の経営理念のもと、経営を遂行しております。

1.個人の尊重

当社は、社員一人一人の権利を尊重し、個人が意義のある文化的な人生と、生き甲斐を追求できる企業でありたい。一人一人の向上心を信じ、自立的な活動を援助し、仕事を通して能力が最大限に発揮できる環境を作り、能力や業績に報う企業とする。

2.存在意義のある企業

当社は、存在意義のある、優れた企業として認められることを望む。
独創性を発揮し、個性と特徴をもち、経営の基盤を、絶えることのない研究開発活動と品質優先に置く経営を貫く。
全ての組織が全力を尽くすことに生き甲斐を感じる企業とする。

3.共存共栄

当社は、社員、顧客、株主、材料部品の購入先、協力会社、取引先などの多くの人々に支えられている。
当社は、これら関係者の全てに満足してもらえるように魅力ある製品、サービス、報酬、環境、取引関係を作り上げるよう最善の努力を払う。

4.社会への貢献

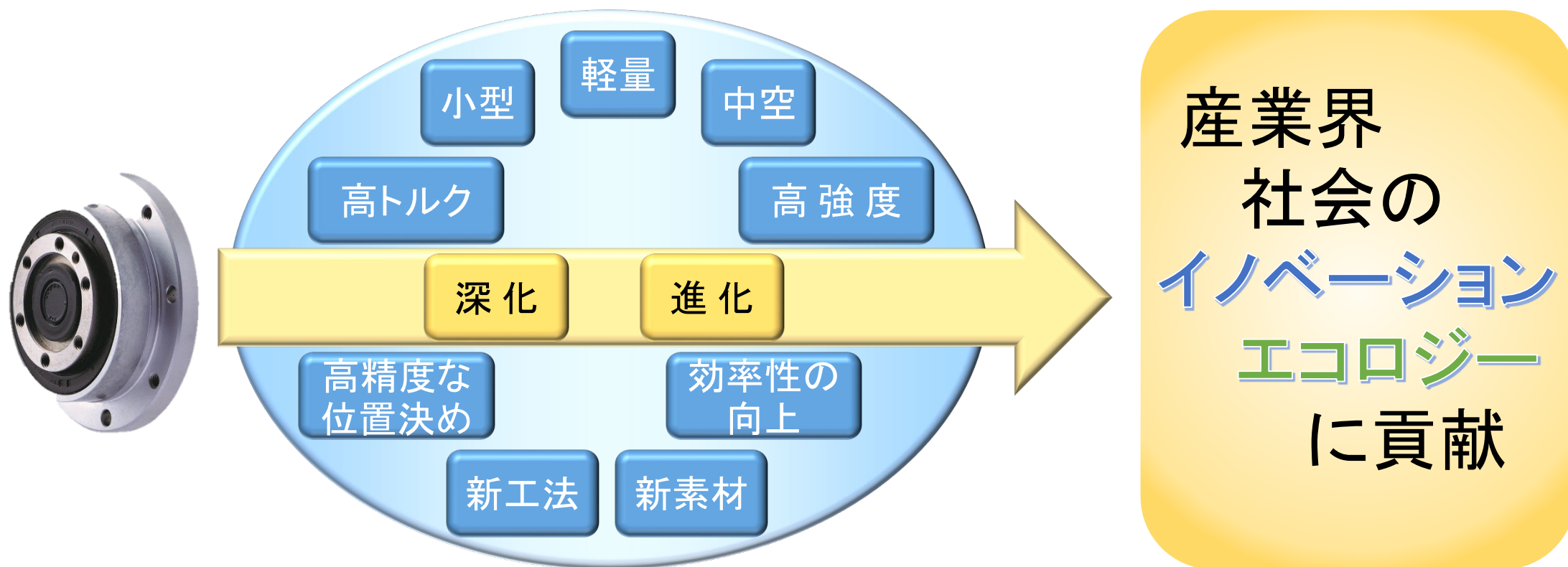
当社は、社会の良き一員として企業活動を通じ、広く社会や産業界に貢献して行く。
我々が提供する製品やサービスが、直接的間接的に広く社会の向上に役立ち、属する地域社会の環境や質の向上に役立つ企業を目指す。

サステナビリティ基本方針

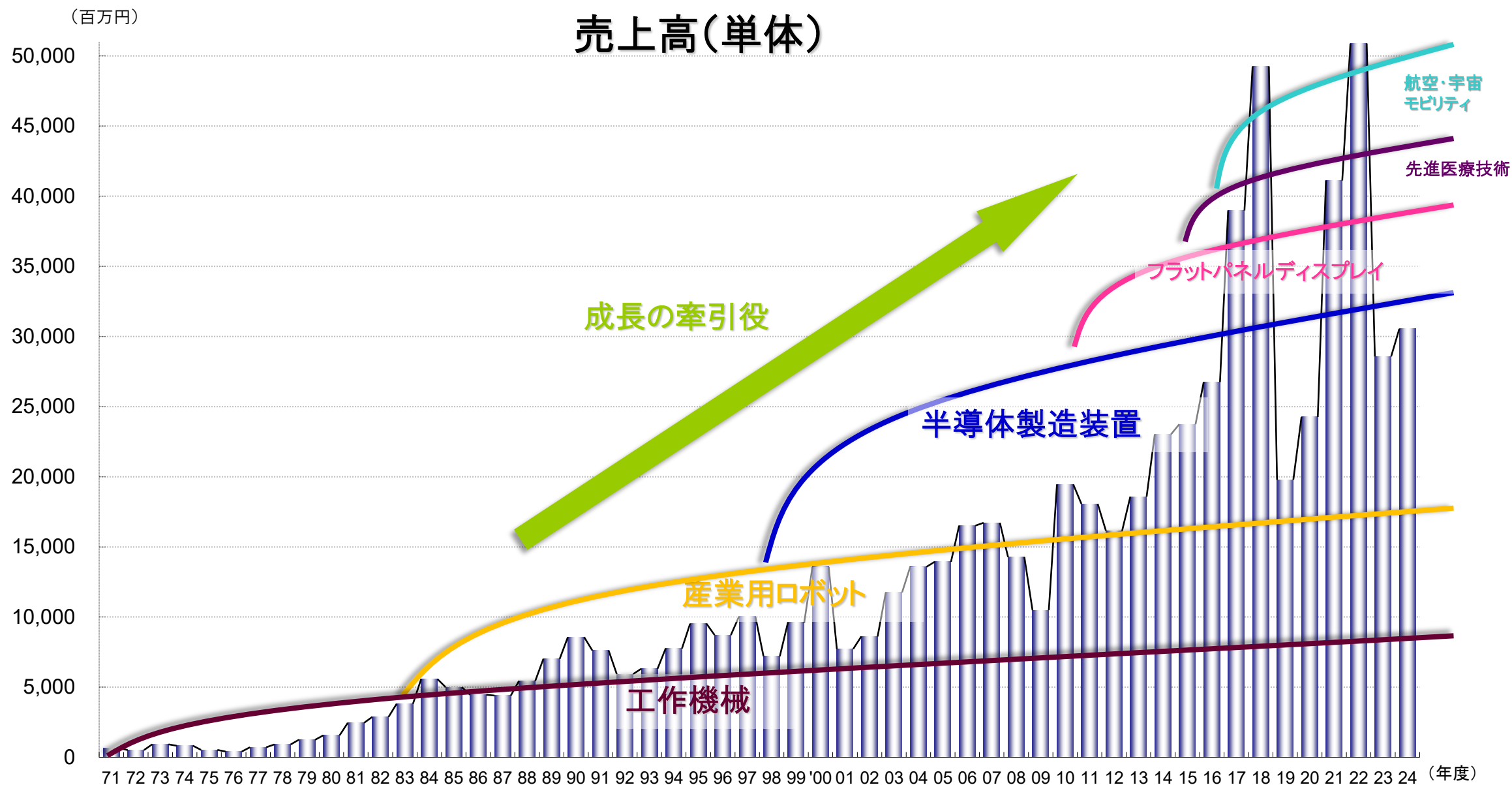
サステナビリティ基本方針(2022年3月25日策定)

私たちは、「**個人の尊重**」、「**存在意義のある企業**」、「**共存共栄**」、「**社会への貢献**」という4つの柱で構成された経営理念に基づき、トータル・モーション・コントロールを提供する技術・技能集団として、社会をより良くするための技術革新に貢献することで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

我々の使命



長期売上高の推移





事業等のリスク

1.設備投資動向による影響

当社グループの製品は、産業用ロボット、半導体製造装置、フラットパネルディスプレイ製造装置をはじめとする産業用機械の部品として販売されるものが大半であるため、設備投資動向が当社グループの業績に影響する。特に、半導体製造装置及びフラットパネルディスプレイ製造装置業界向けは、半導体デバイスやパネル市場の市況好転や製造技術の革新などにより大きな成長を遂げることがある反面、需給調整などによる予期せぬ市場の縮小が起こった場合は当社グループの業績に悪影響が及ぶ可能性がある。

2.研究開発による影響

当社グループは、モーションコントロール分野における技術・技能集団として、研究開発部門への重点的な資源配分を実施することで、高付加価値で特長ある製品を開発し、市場投入している。しかしながら、研究開発への資源配分を継続する一方、その成果である新製品の市場投入または市場浸透が遅れた場合は当社グループの業績に悪影響が及ぶ可能性がある。

3.品質に関する影響

当社グループは、お客様満足の向上と市場における優位性を高めるために、ISO9001 の認証取得をはじめとした品質保証体制の強化に努めている。しかしながら、予期せぬ製品の不具合が発生することなどにより、当社グループの業績に悪影響が及ぶ可能性がある。

4.外国為替の変動による影響

当社グループは、米国に連結子会社2社、中国に連結子会社1社、韓国に連結子会社1社、ドイツに連結子会社1社及び欧州にその連結子会社8社を有し、事業における積極的な国際化を推進しております。従いまして、為替変動は当社グループの事業活動に悪影響を与えることがある。また、為替変動は、当社グループの外貨建取引に伴う収益・費用及び資産・負債の円換算額に影響を与え、経営成績や財務状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

5.退職給付債務に関する影響

当社及び一部の連結子会社では、確定給付型の退職年金制度または退職一時金制度を設けているため、退職給付債務及び退職給付費用の計算の基礎となる条件の見直しや、年金資産の運用環境悪化等が、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性がある。

6.その他リスク

当社グループだけでは避けることのできない、経済や政治環境の変化、自然災害、戦争、テロなどのような予期せぬ事象の発生により、当社グループの業績が悪影響を被る可能性がある。

※ 上記は要約版です。詳しくは最新の有価証券報告書をご参照ください。

中長期的な経営戦略と目標

中長期的な経営戦略

当社グループは、「モーションコントロール技術で社会の技術革新に貢献する」という不変のミッションを推進しております。当社グループが手掛けるメカトロニクス製品、精密減速装置は、EV化、手術支援ロボットなど、新たな「社会の技術革新」に大きく貢献しており、今後もその需要は拡大していくことが予想されます。また、世界的な人手不足が顕在化するなか、自動化が加速しており、協働ロボットに加え、新たな市場として「AI・ヒト型ロボット」の需要増加が見込まれております。当社グループはこのような成長機会を確実に取り込むための経営基盤をより強固なものにするとともに、現中期経営計画(2024年度～2026年度)に基づき、グループ一体となって持続可能な社会の実現に向け活動を推進してまいります。さらに、ミッション・長期ビジョンの達成に向け、攻めと守りのバランスを勘案した経営戦略を遂行することにより、中長期的な企業価値向上を図ってまいります

なお、サステナビリティ基本方針、当社グループのミッション、長期ビジョン、マテリアリティ、中期経営計画の要旨は以下のとおりです。

サステナビリティ基本方針

私たちは、「個人の尊重」「存在意義のある会社」「共存共栄」「社会への貢献」という4つの柱で構成された経営理念に基づき、トータル・モーション・コントロールを提供する技術・技能集団として、社会をより良くするための技術革新に貢献することで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

当社グループのミッション

モーションコントロール技術で社会の技術革新に貢献する

長期ビジョン

未来と調和するトータル・モーション・コントロールのベストプロバイダー

マテリアリティ

- ・人的資本の価値最大化
- ・お客様の期待値に応えるQCDSの実現
- ・環境の変化に適合した新技術・新技能への挑戦と創出
- ・企業活動を通じて持続可能な社会に貢献する
- ・時代に調和した経営基盤の構築

中長期的な経営戦略と目標

中期経営計画(2024年度～2026年度)

～「価値創出と変革」への挑戦～

(基本方針)

①収益性を重視した全事業の持続的な成長

- ・新たな成長ドライバーの開拓
- ・顧客期待値に応えるQCDS+Speedの徹底

②環境の変化に適合できる経営資源(ひと、もの、かね、情報)の強化

- ・個の成長と多様な脳力が発揮され、尊重される組織の実現
- ・資本効率を意識した成長投資
- ・財務基盤およびガバナンス強化

③未来に続く企業価値向上への取り組み

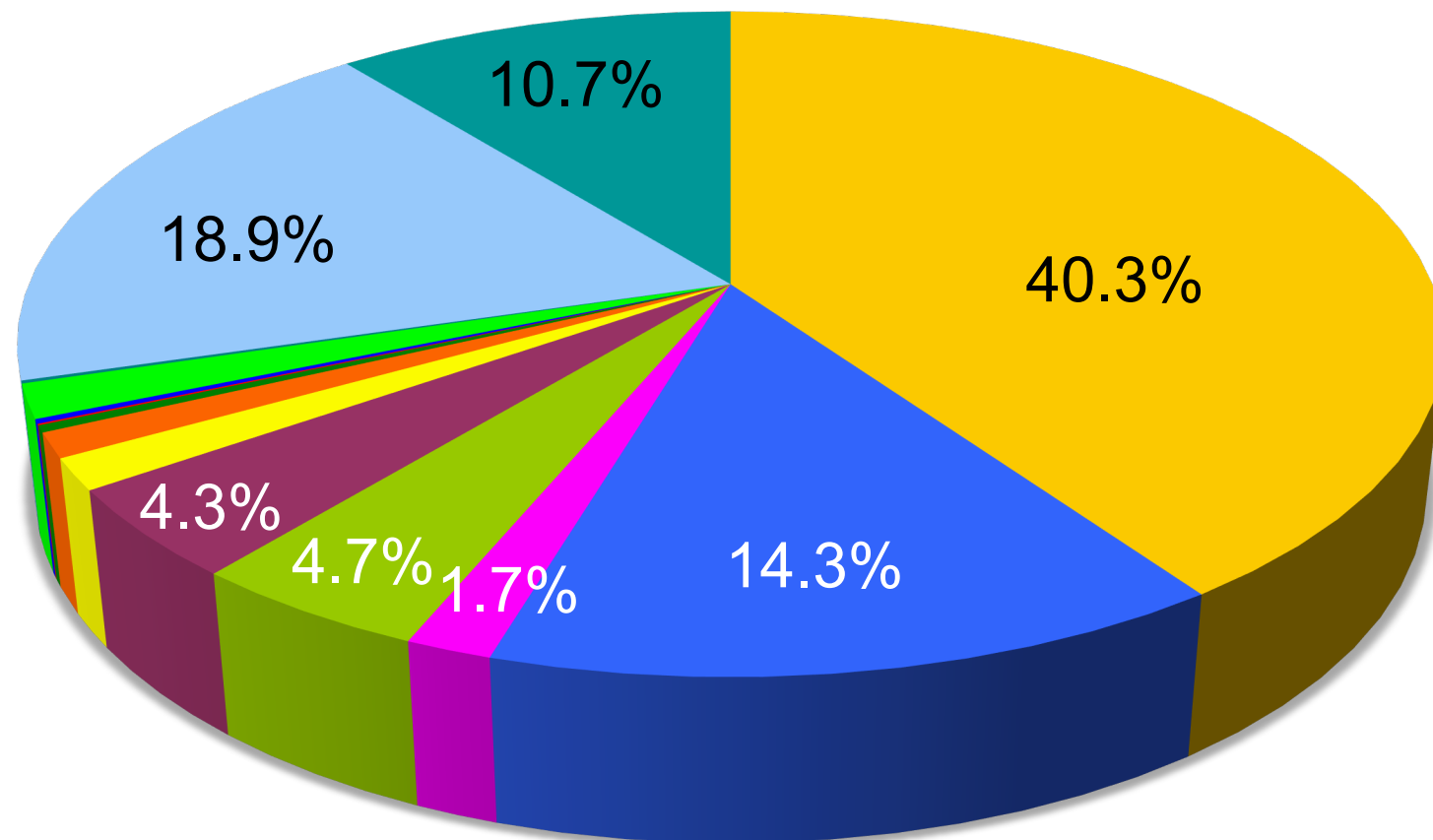
- ・ネットゼロの推進
- ・多様な人財の登用、採用
- ・お客様の環境負荷低減を促進する製品の開発

目標とする経営指標

当社グループでは、持続的な成長と長期的な企業価値向上の実現に向けて、中期経営計画(2024年度～2026年度)における当社グループの重要な経営管理指標として、売上高営業利益率が15%以上、売上高に対する“キャッシュ創出の能力指標”として売上高EBITDA率25%以上を経営目標にしております。また、比較すべき資本コスト(WACC)の水準を9%程度と想定し、自己資本当期純利益率(ROE)及びROICの目標を10%以上と定め、投下資本の運用効率を意識した経営を実践し、資本収益性の向上を図ってまいります。

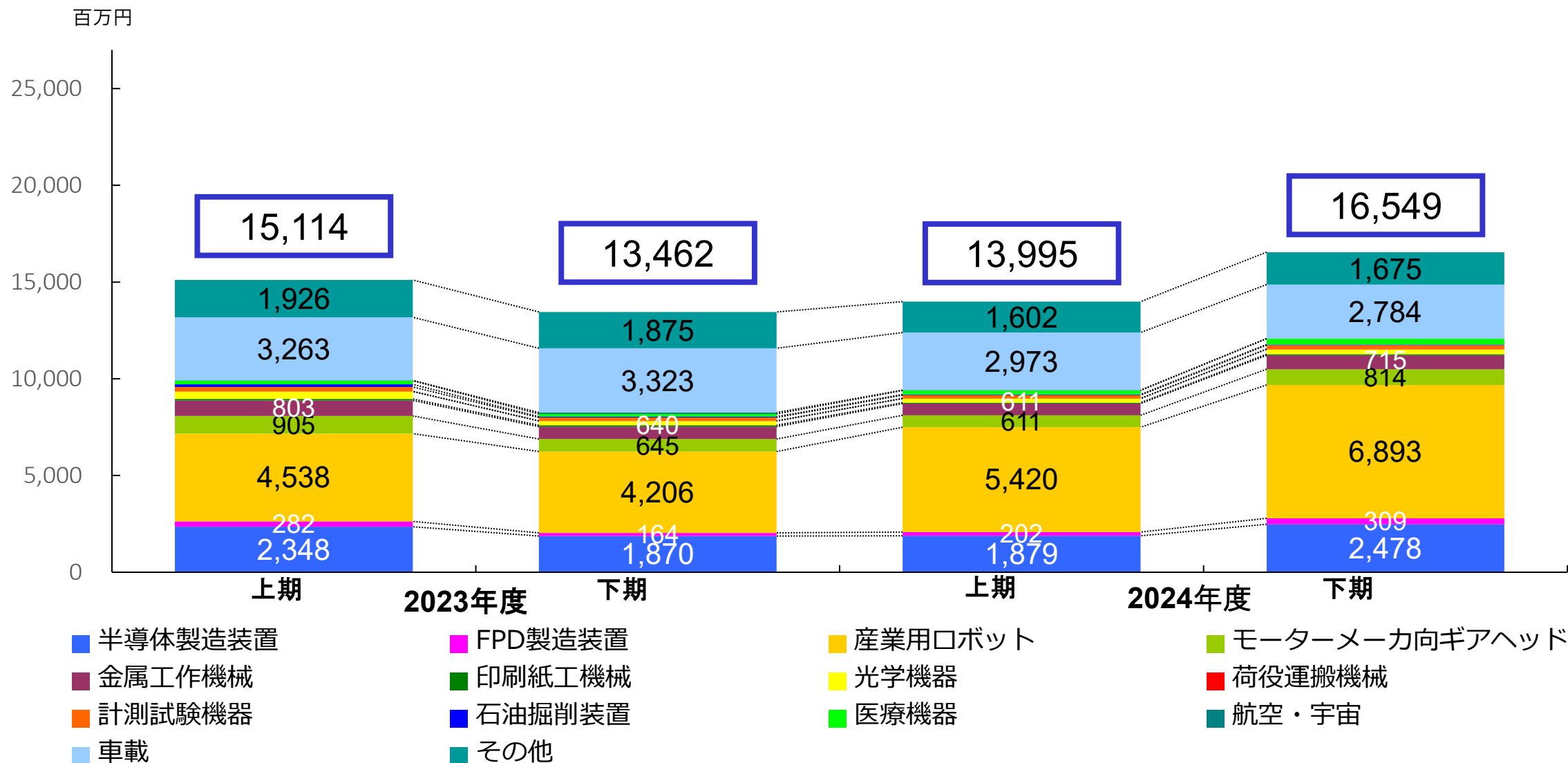
用途別売上高

2024年度



- | | | | | |
|---------|---------|---------|-----------------|--------|
| 産業用ロボット | 半導体製造装置 | FPD製造装置 | モーターメーカー向けギアヘッド | 金属工作機械 |
| 光学機器 | 計測試験機 | 印刷機械 | 荷役運搬装置 | 石油掘削装置 |
| 医療機器 | 航空・宇宙 | 車載 | その他 | |

半期用途別売上高



2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)の経営成績

当連結会計年度における世界経済は、全体としては回復基調ながら、米国トランプ大統領の保護主義政策、中国の不動産不況と内需の低迷、さらには資源価格・原材料価格の高騰など、先行きの不透明感が根強く残りました。当社グループにおける影響といたしましては、受注高は緩やかに回復するも、調達部材の高騰、賃上げに伴う人件費の増加などが顕著に現れました。当社グループの受注環境は、国内では受注の底入れが確認でき、当社製品の在庫が適正化されたお客様からの受注が緩やかながら回復基調となりました。また、ハイエンド志向の中国ローカルロボットメーカーからの受注拡大及び新規のお客様からの案件により、産業用ロボット向けが増加した一方で、車載向けは減少しました。結果として、通期の連結受注高は前期比20.3%増加の530億41百万円となりました。

用途別の売上高の動向は、産業用ロボット向けは、主要顧客における在庫調整が進み、お客様の発注が正常化に近づいたことに加え、ハイエンドの中国ローカルロボットメーカー向け及び新規のお客様からの案件獲得により、大幅に増加しました。一方、半導体製造装置向けは、特に最先端分野において、データセンター用途、生成AI 関連用途などが需要をけん引したものの、高水準な受注残に支えられた前期に対し、売上高は減少しました。また、車載用途については、お客様の生産調整により売上高は減少しました。

これらの結果、連結売上高は、前期比0.3%減少の556億45百万円となりました。

損益面につきましては、全社コスト革新プロジェクトを立ち上げ、製造工法や業務効率を中心に全社を挙げて改革を進めました。上半期は産業用ロボット向け、半導体装置向け製品の受注回復のペースが想定より緩やかであったこと、国内生産工場の操業度も低水準であったことから、営業赤字となりました。下半期は受注が回復基調となり、上半期の赤字を打ち消し、通期の営業利益は前期比94.4%減少となったものの6百万円の黒字となりました。また、投資有価証券の売却等で、58億68百万円の特別利益を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は34億73百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失248億6百万円)となりました。

なお、製品群別の売上高は、減速装置が423億4百万円(前期比7.3%増)、メカトロニクス製品が133億41百万円(前期比18.5%減)で、売上高比率はそれぞれ76.0%、24.0%となりました。

2024年度は、中期経営計画(2024年度～2026年度)の初年度として、当該計画に掲げた各施策に取り組んでまいりました。

営業面におきましては、日進月歩で開発が進むAI・ヒト型ロボット関連のお客様との関係構築強化を図りつつ、既存のお客様には課題解決に対し更なるスピード感をもって対応することで、受注の獲得に取り組んでまいりました。同時に製品の値上げにも取り組み、今期は限定的ながら、一定の効果を確認しております。さらに、展示会におきましては、一般的な機械要素部品展だけでなく、航空・宇宙関連の展示会に出展するなど、当社製品の採用機会拡大を図りました。

研究開発面におきましては、主力製品である波動歯車装置(ハーモニックドライブ®)の進化を図るとともに、外部研究機関との共同研究にも注力し、次世代のモーションコントロールに必要となり得る要素開発と製品化の取り組みを継続しました。特に新規開発案件では、最新の軽量化技術と工法開発を適用した提案を行い、お客様の技術革新に貢献しました。また、メカトロニクス分野におきましては、ACサーボドライバ- HA900Aシリーズを市場導入しました。加えて、他社製品よりも省スペース化を実現する精密遊星減速機タイプのサーボアクチュエーターの開発に注力し、高付加価値メカトロニクス製品の強化・拡大を図りました。

生産面におきましては、メカトロニクス製品の製造事業を、ハーモニックウィンベル社(連結子会社)へ移管することでグループ全体の効率的な製造拠点の配置、資産の有効活用、事業運営の安定・最適化を図りました。また、全社コスト革新プロジェクトを推進し、調達先の拡大や海外での組み立てによるコストダウンに取り組んでまいりました。さらに、DXソリューションを活用し、製造工程の状態把握や予実管理、打ち手の指示・支援をリアルタイムで管理するため「MES(製造実行システム)」を有明工場(長野県)に導入し、運用を開始するとともに、有明工場のノウハウを他工場に展開することで更なる生産のDX化に取り組んでまいりました。

経営成績

海外生産拠点であるドイツ、アメリカの子会社においても、各地域のお客様向けに、現地生産品目を拡大すべく、グループの生産効率の最大化を念頭に、製品の生産移管を実施しました。品質面におきましては、各種製造データの「見える化」を大幅に進め、品質管理体制を強化してまいりました。また、グループ各社間の連携にも力を注ぎ、生産移管推進に伴う「世界共通品質」の維持・改善に取り組んでまいりました。

サステナビリティ活動の取り組みでは、「ハーモニック・ドライブ・システムズグループ人権方針」を策定し、人権尊重への取り組みを進めてまいりました。2023年4月に発足したサステナビリティ委員会では、経営層が自ら積極的にイニシアチブをとり、サステナブルな企業価値創造に取り組んでまいりました。また、トップダウンのみならず、全社員が積極的に参加できる「SDGs提案制度」も定着するなど、グループを挙げたサステナビリティ活動を推進しました。

所在地別セグメントの業績

(日本)

産業用ロボット向け、半導体製造装置向け製品の売上高は緩やかな回復基調となった一方で、車載向け、その他一般産業機械向けの売上高が減少し、売上高は前期比0.4%減少の217億27百万円となりました。また、セグメント利益(経常利益)は、減収の影響に加え、子会社からの受取配当金が19億80百万円減少したことにより、前期比45.6%減少の22億24百万円となりました。

(中国)

中国ローカルロボットメーカーからの受注拡大により、売上高は前期比35.1%増加の56億23百万円となりました。また、セグメント利益(経常利益)は、セールスマックスの変化により、前期比6.5%減少の3億2百万円となりました。

(北米)

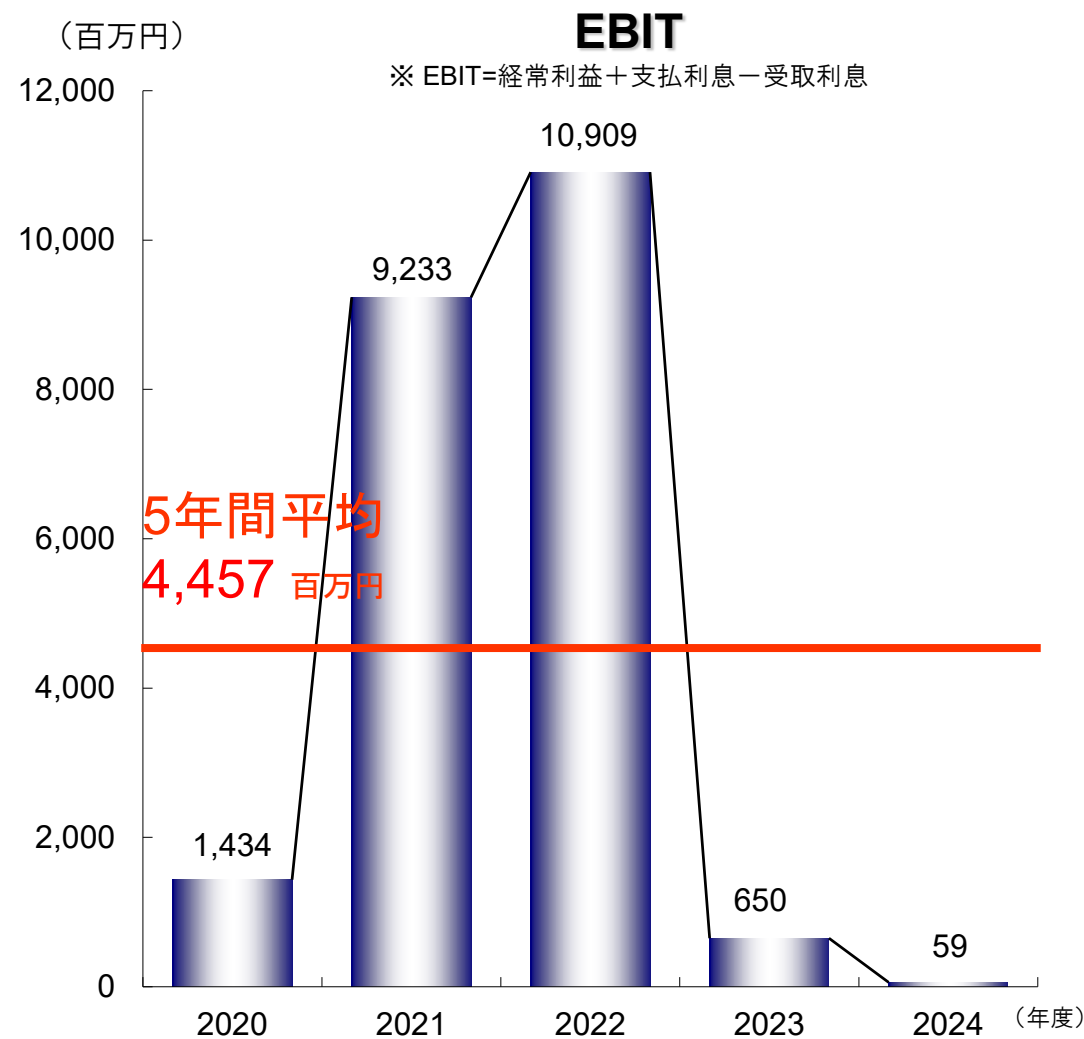
お客様の生産調整により先進医療用途(手術支援ロボット関連)向けが減少したことに加え、半導体製造装置向け需要の回復が遅れていることにより、売上高は前期比12.5%減少の116億28百万円となりました。また、セグメント利益(経常利益)は、減収の影響により、前期比67.4%減少の5億56百万円となりました。

(欧州)

為替相場が円安に推移した一方で、欧州経済の低迷により需要が高まらず、売上高は前期比0.8%増加の166億66百万円となりました。また、セグメント利益(経常利益)は、ハーモニック・ドライブ・エスイー株式取得時に計上した無形固定資産に係る減価償却費9億44百万円の負担により、52百万円のセグメント損失(経常損失)(前年同期はセグメント利益2億14百万円)となりました。

業績ハイライト① 売上高, EBIT

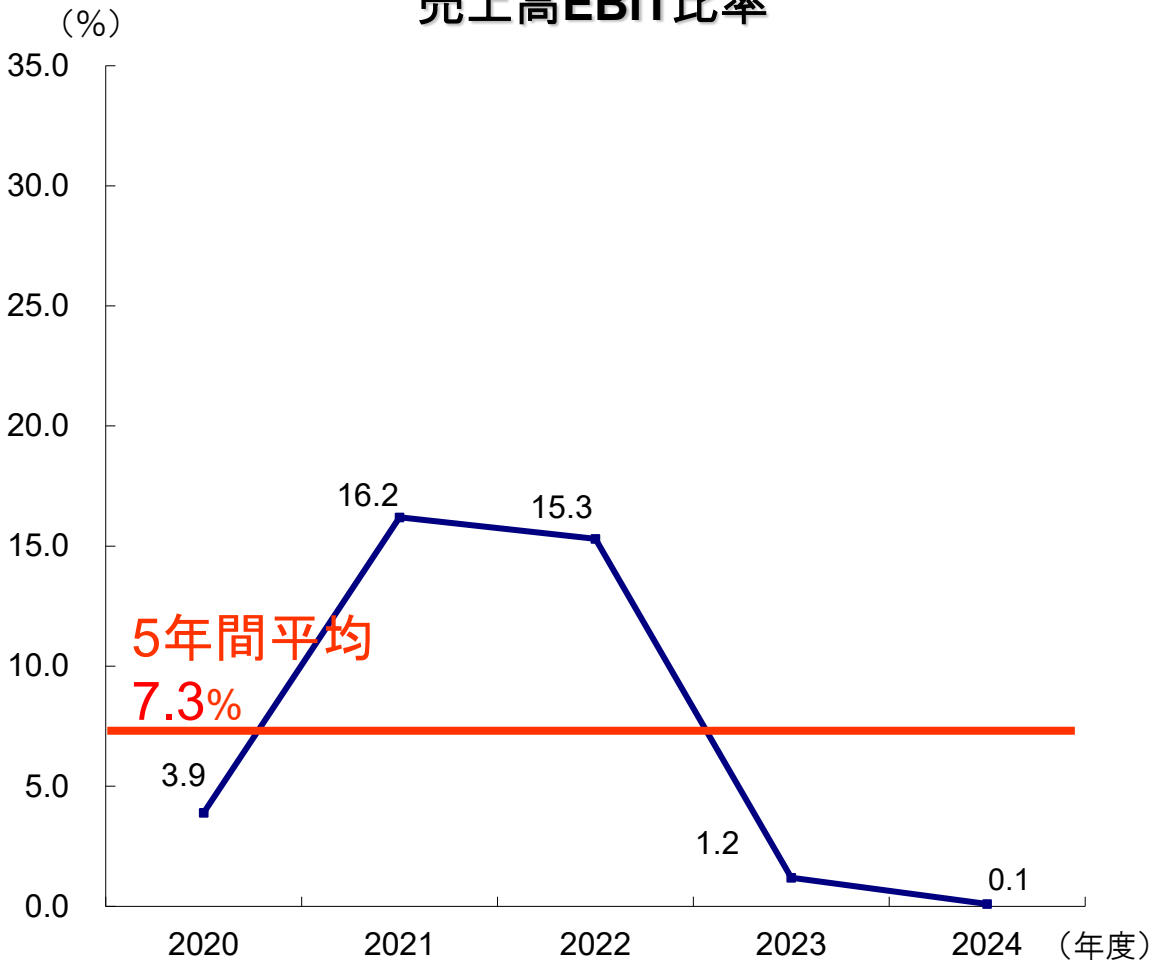
(連結)



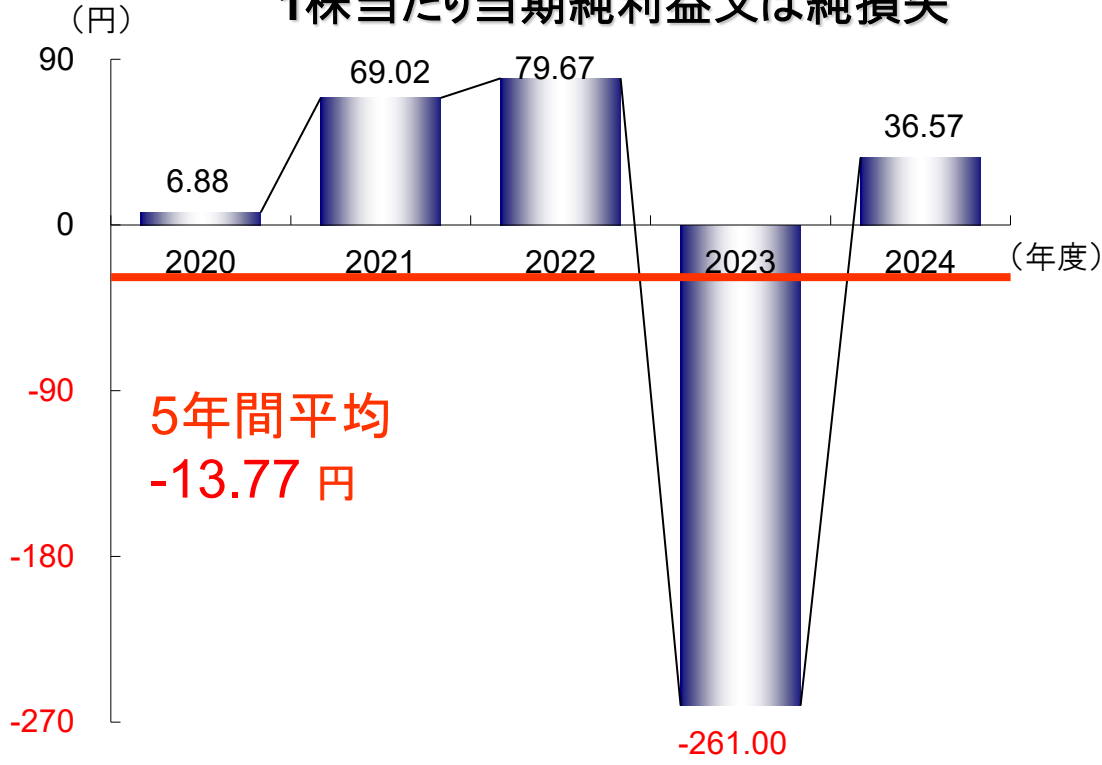
業績ハイライト② 売上高EBIT比率、1株当たり当期純利益

(連結)

売上高EBIT比率



1株当たり当期純利益又は純損失



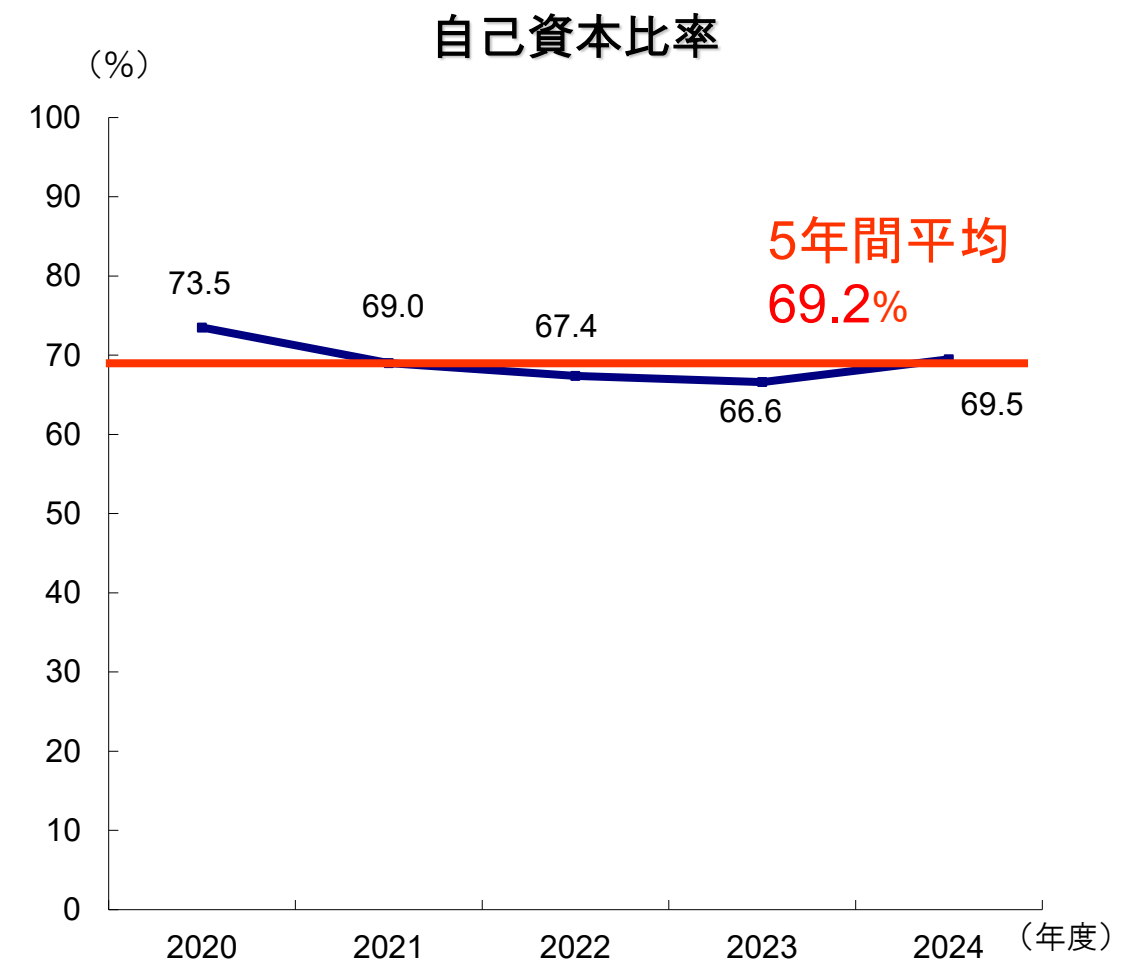
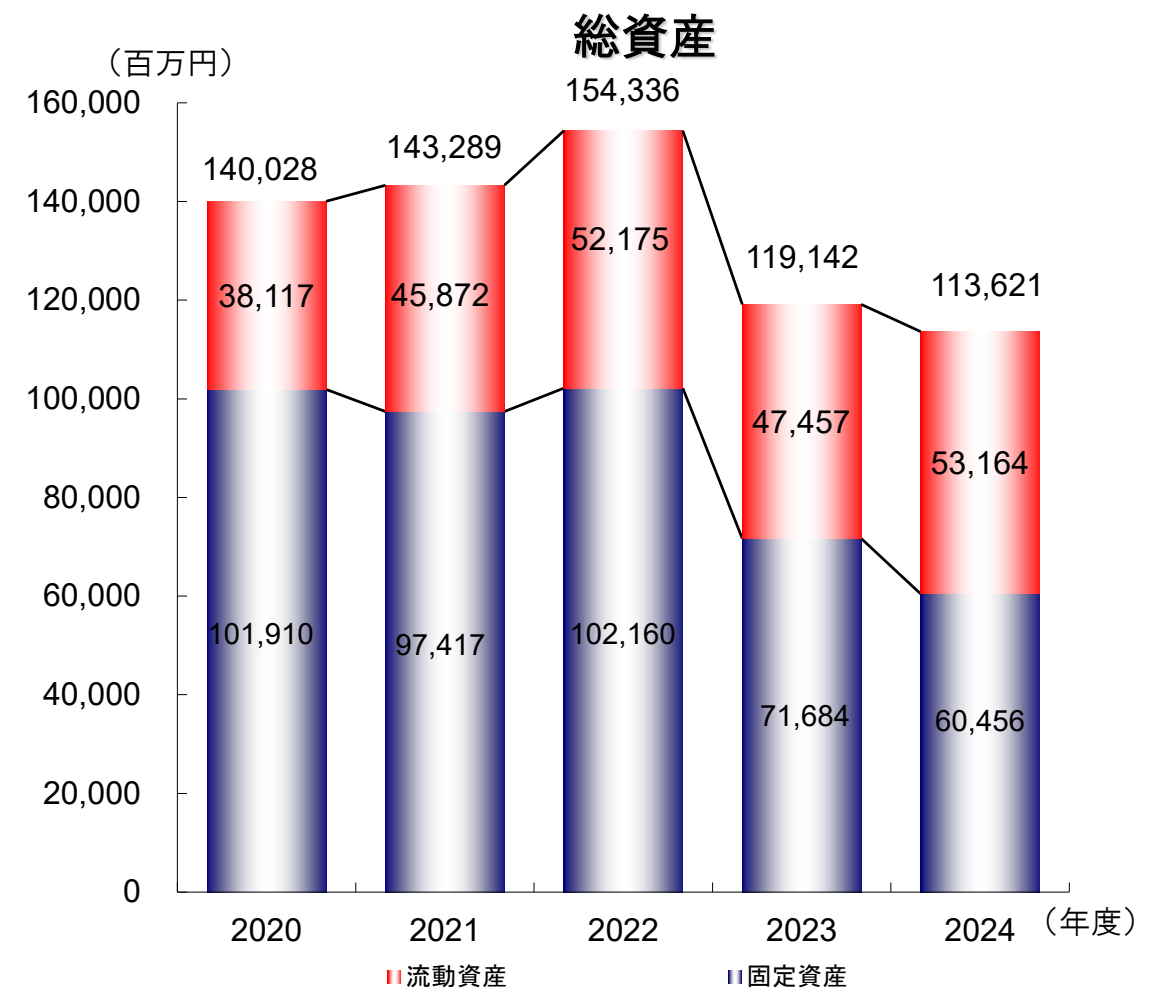
1株当たり配当額

年度 FY	2020	2021	2022	2023	2024
配当額(円)	20	21	28	20	20

※2023年度の親会社株主に帰属する当期純損失には、連結子会社ハーモニック・ドライブ・エスイーに係る無形固定資産の減損損失28,159百万円が含まれております。

業績ハイライト③ 総資産、自己資本比率

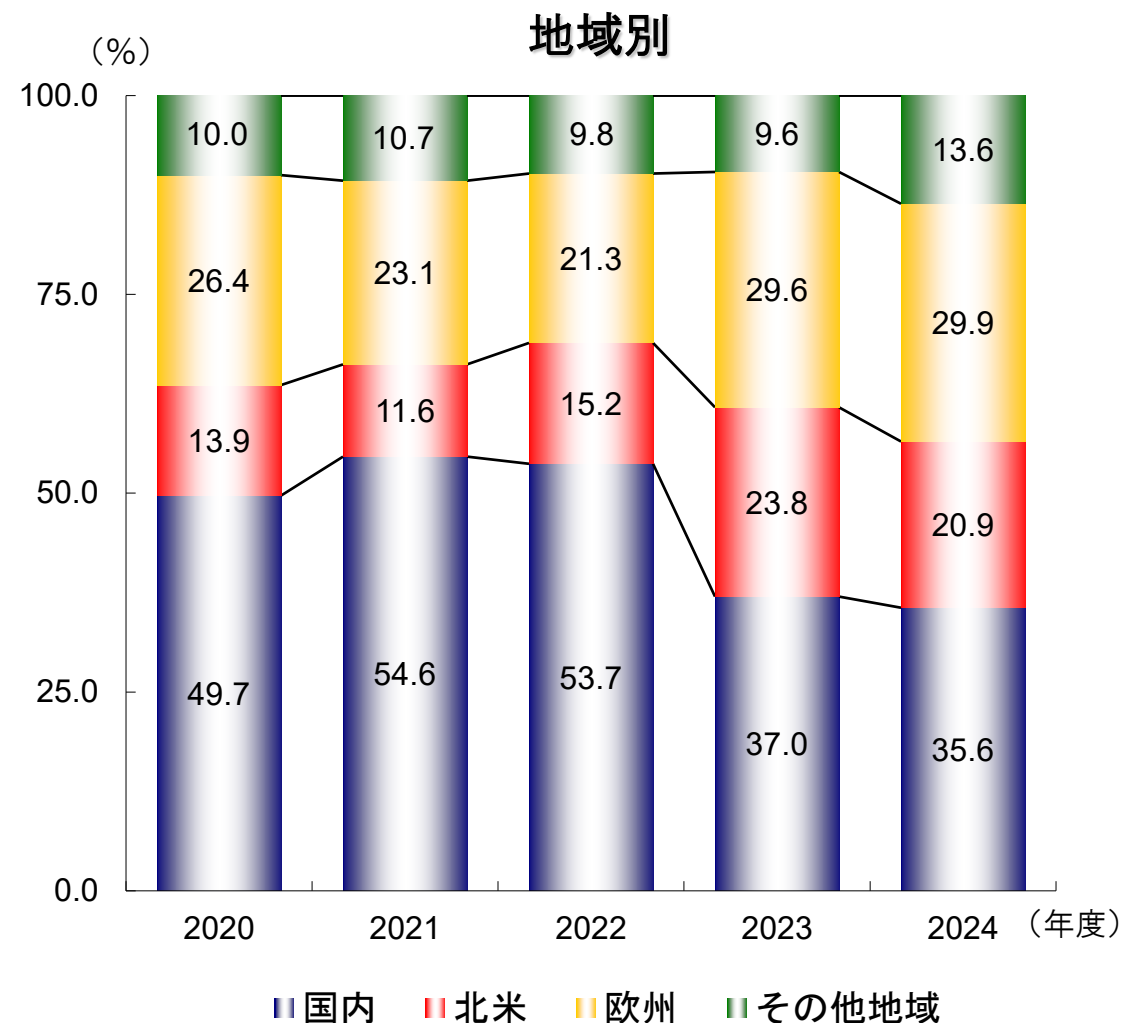
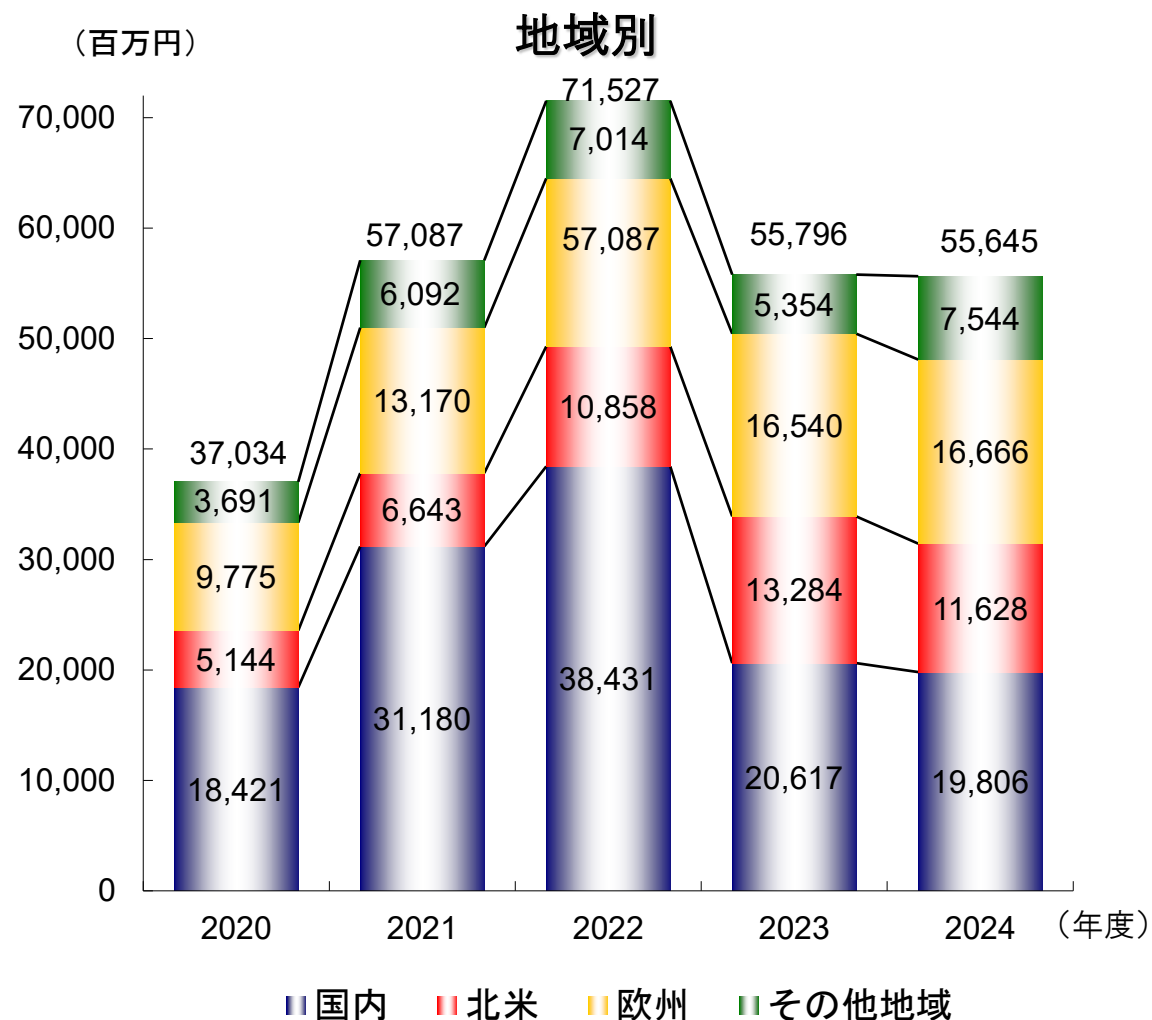
(連結)



※ハーモニック・ドライブ・エスイーの子会社化に伴い発生した無形固定資産について、2023年度に28,159百万円減損しております。

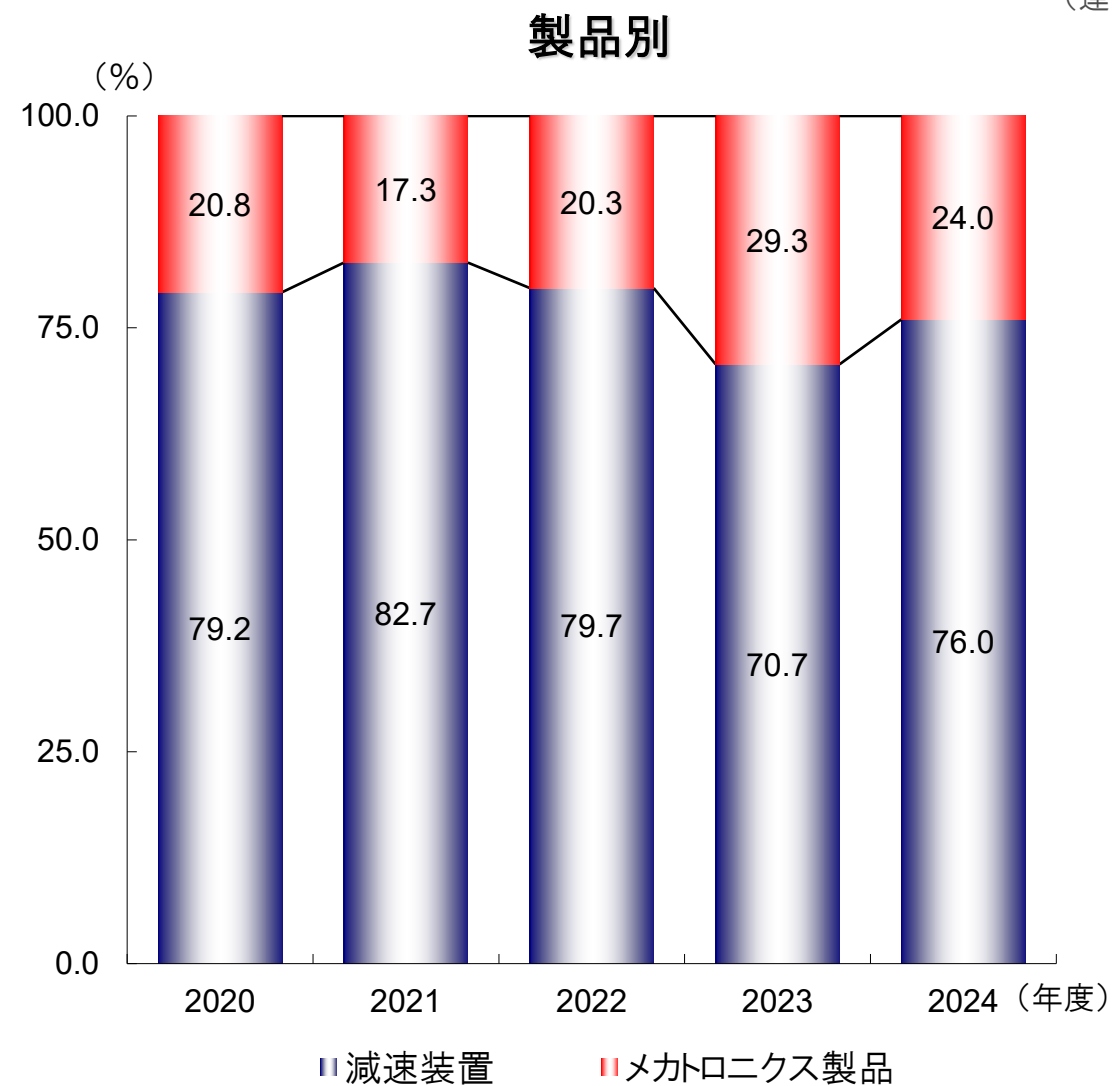
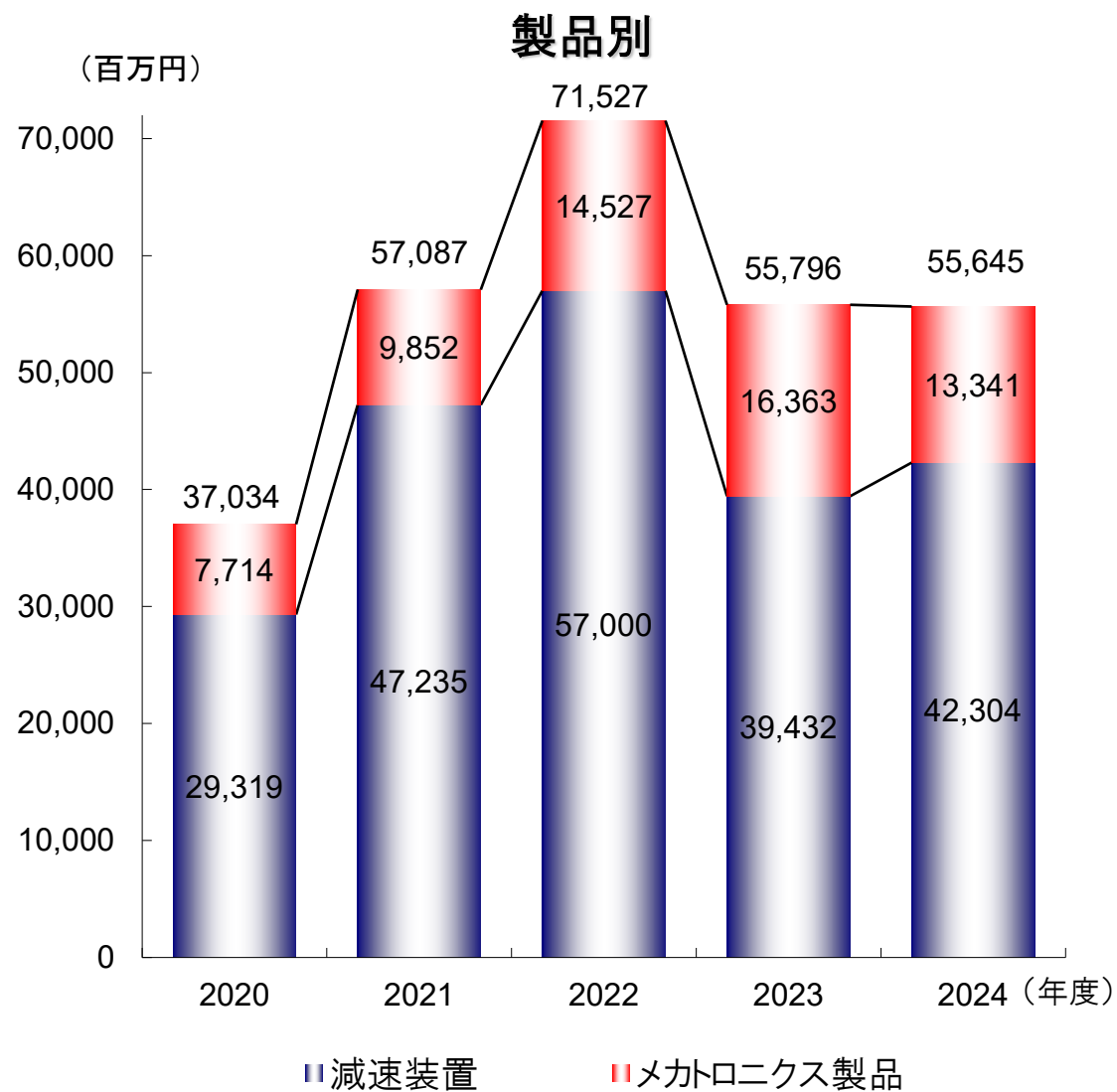
売上構成①

(連結)



売上構成②

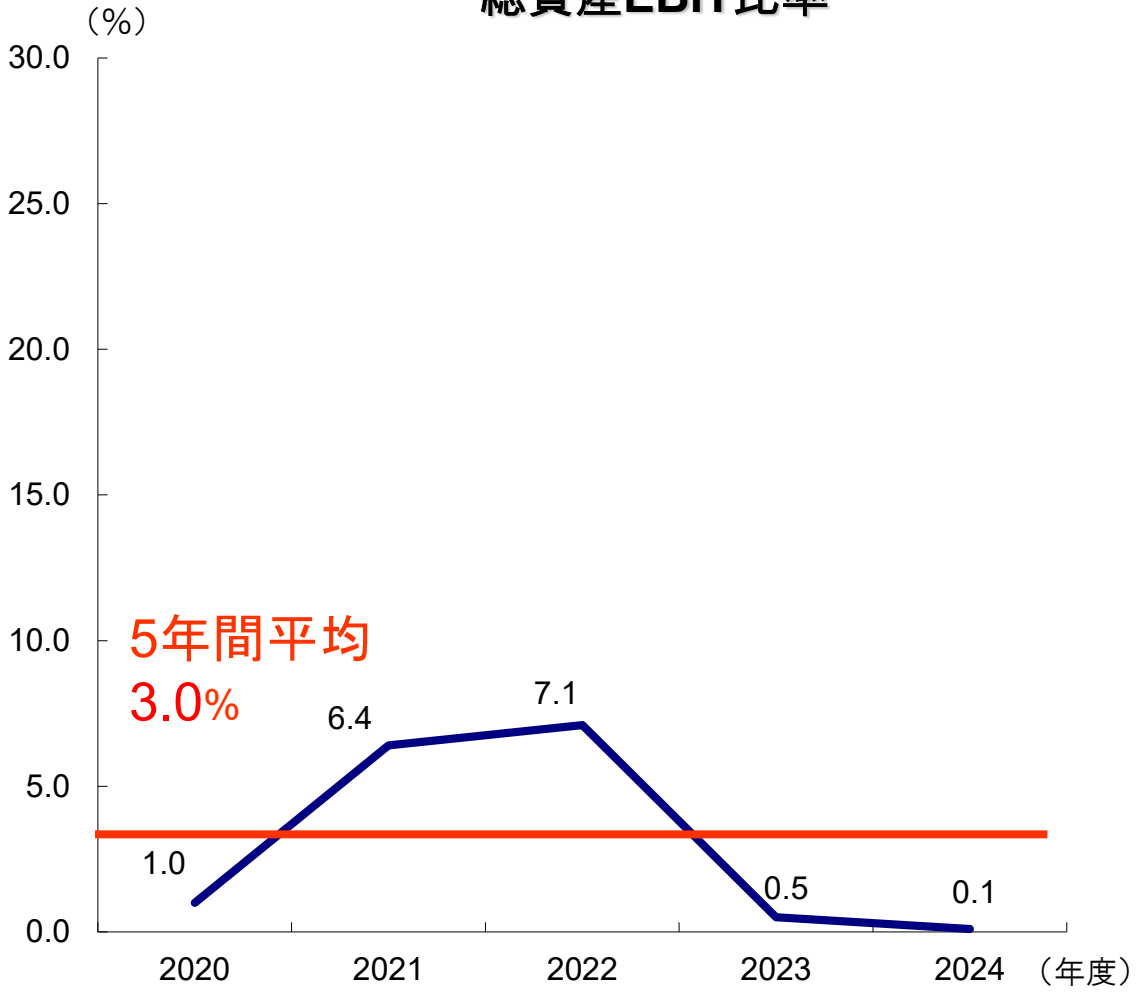
(連結)



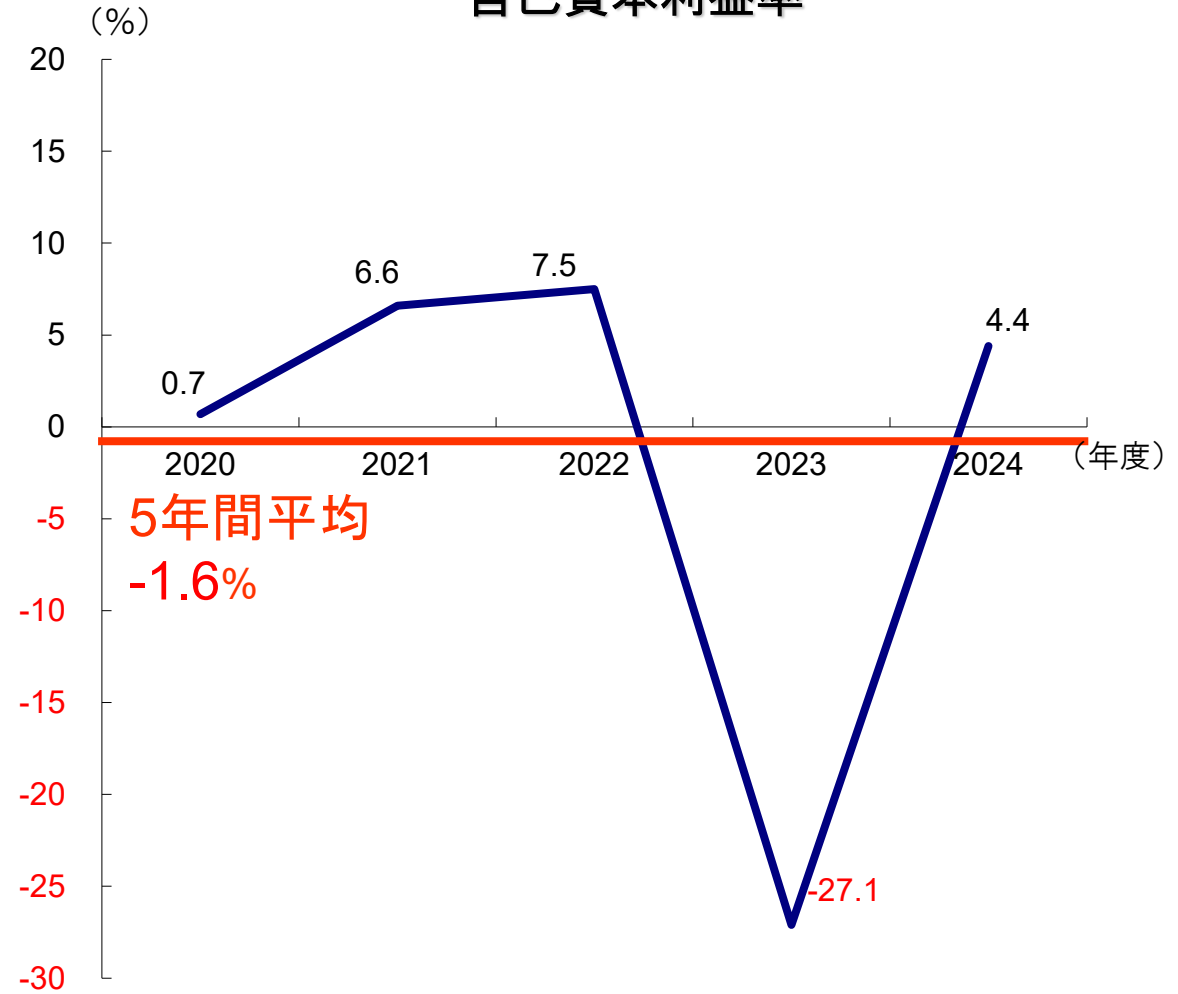
収益性指標 総資産EBIT比率、自己資本利益率

(連結)

総資産EBIT比率



自己資本利益率

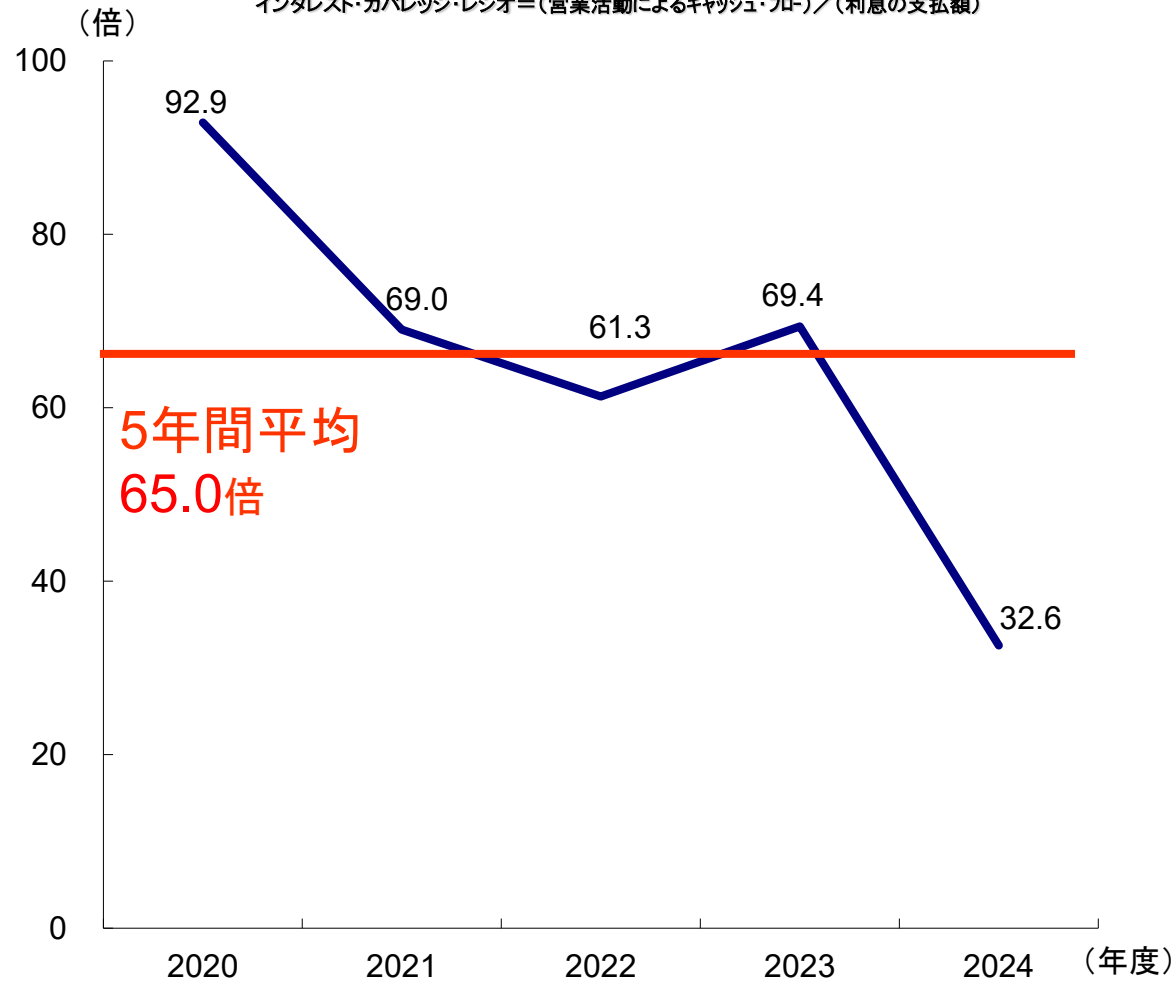


安全性指標 インタレスト・カバレッジ・レシオ、デット・エクイティ・レシオ

(連結)

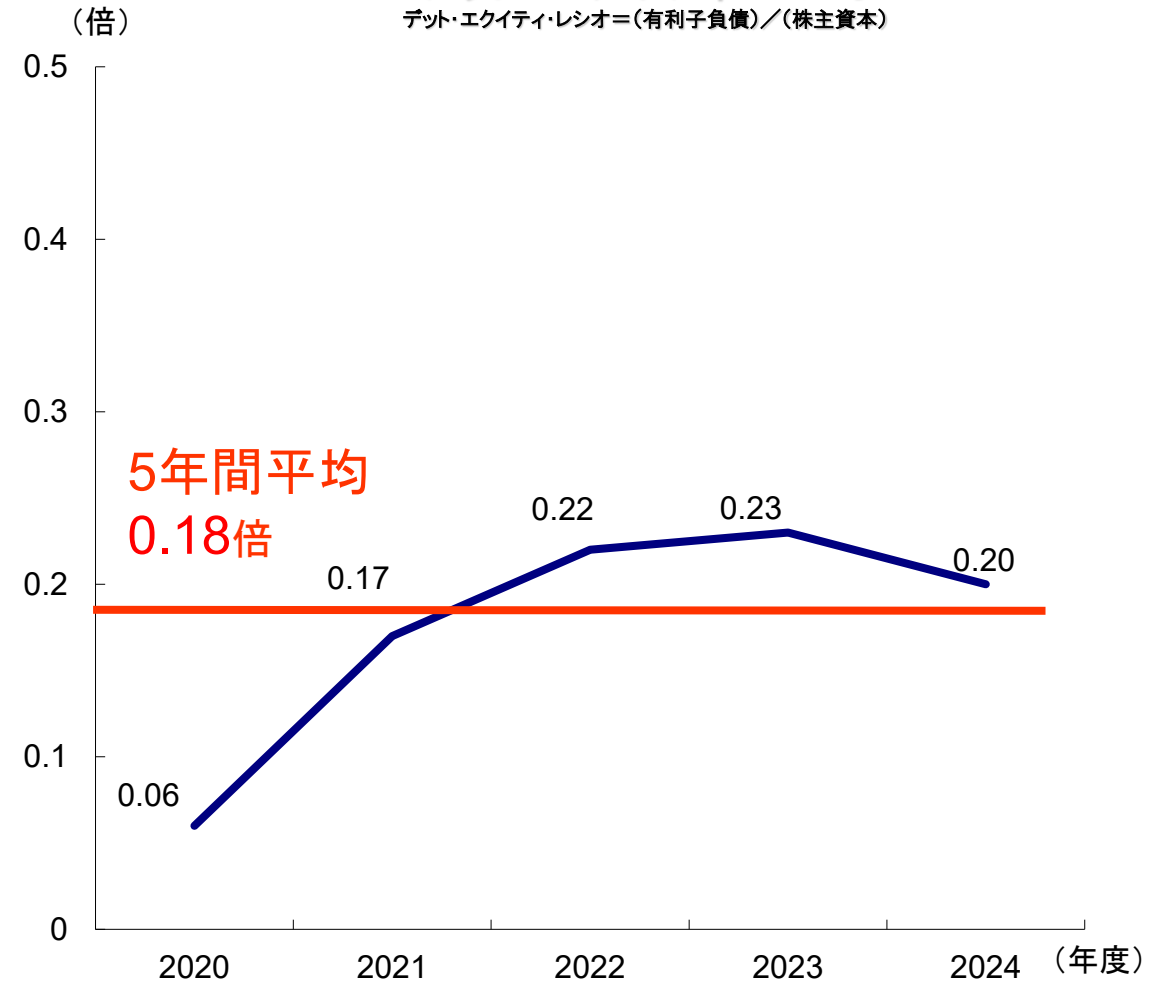
インタレスト・カバレッジ・レシオ

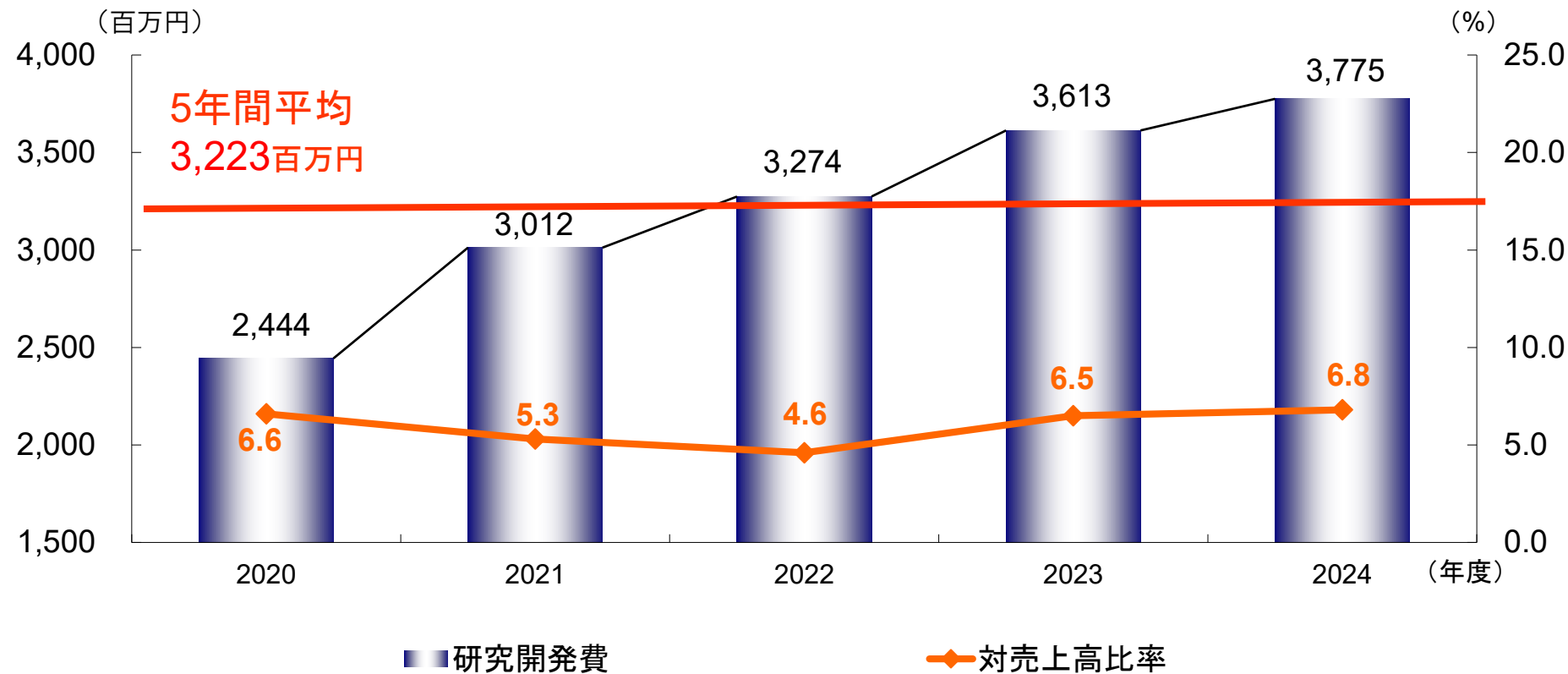
インタレスト・カバレッジ・レシオ＝(営業活動によるキャッシュ・フロー)／(利息の支払額)



デット・エクイティ・レシオ

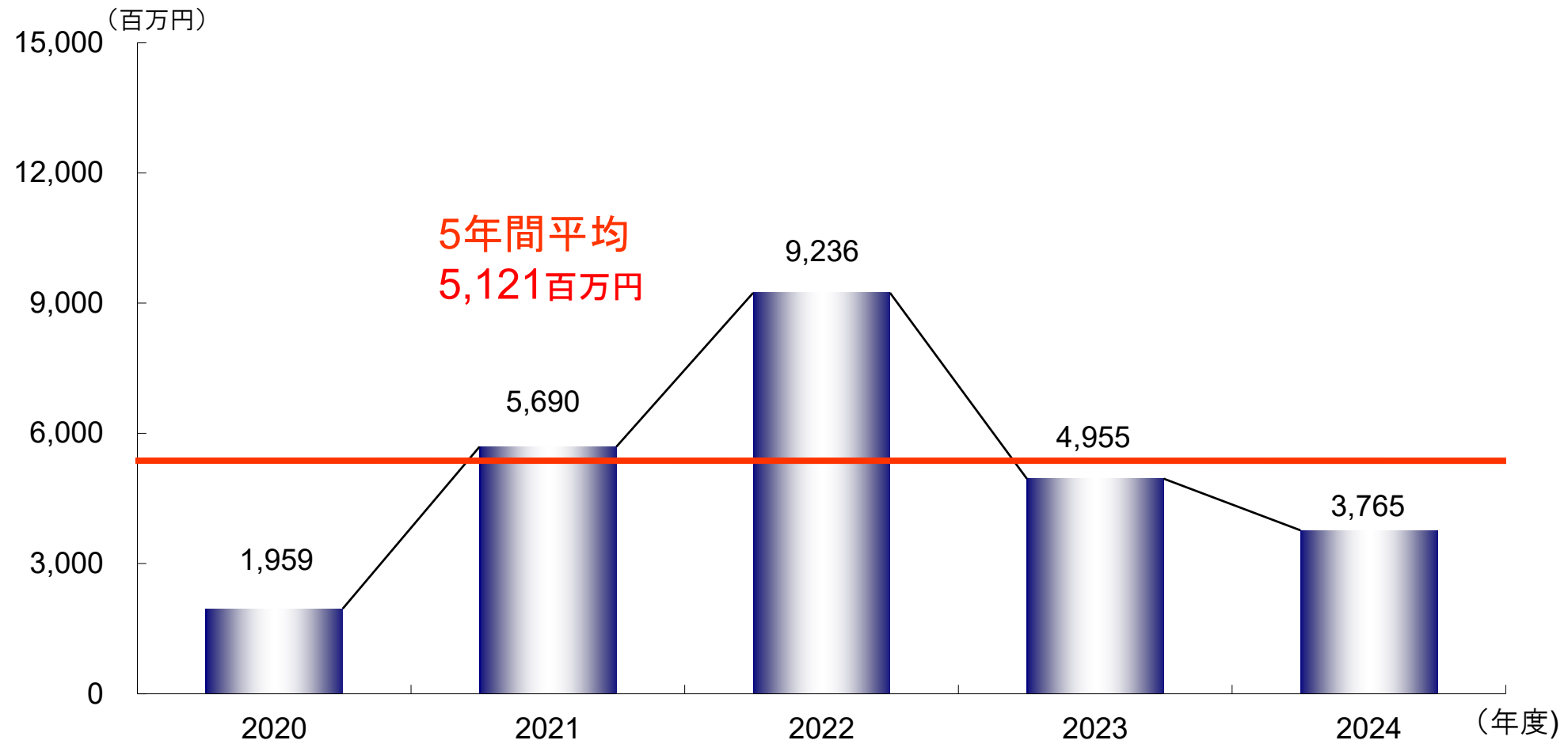
デット・エクイティ・レシオ＝(有利子負債)／(株主資本)





会計年度	2020	2021	2022	2023	2024
研究開発要員 (人)	144	139	137	141	148
対従業員比 (%)	13.0	12.1	10.3	10.5	10.7

設備投資



※ 有形固定資産及び無形固定資産の取得額

連結貸借対照表

	FY 2020	FY 2021	FY 2022	FY 2023	FY 2024
流動資産	38,177	45,872	52,175	47,457	53,164
固定資産	101,910	97,417	102,160	71,684	60,456
有形固定資産	41,991	43,967	48,926	48,147	45,959
無形固定資産	41,003	40,435	40,332	12,897	12,158
投資その他の資産	18,915	13,013	12,901	10,639	2,338
資産合計	140,028	143,289	154,336	119,142	113,621
負債合計	29,968	44,433	50,380	39,740	34,678
流動負債	7,954	14,127	16,467	11,719	13,896
固定負債	22,014	30,306	33,913	28,020	20,781
純資産合計	110,059	98,856	103,955	79,401	78,943
株主資本	91,784	89,184	89,747	62,048	63,305
その他の包括利益	11,104	9,671	14,207	17,353	15,637
新株予約権	—	—	—	—	—
少数株主持分 (非支配株主持分)	7,170	—	—	—	—
負債純資産合計	140,028	143,289	154,336	119,142	113,621

(百万円)

※ハーモニック・ドライブ・エスイーの子会社化に伴い発生した無形固定資産について、2023年度に28,159百万円減損しております。

連結損益計算書

(百万円)

	FY 2020	FY 2021	FY 2022	FY 2023	FY 2024
売上高	37,034	57,087	71,527	55,796	55,645
売上総利益	12,582	22,426	25,786	15,606	14,854
販売費及び一般管理費	11,716	13,686	15,561	15,481	14,847
営業利益	865	8,739	10,224	124	6
経常利益	1,366	9,108	10,757	570	151
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(▲)	662	6,643	7,595	▲24,806	3,473

※2023年度の親会社株主に帰属する当期純損失は、連結子会社ハーモニック・ドライブ・エスイーに係る無形固定資産の減損損失28,159百万円が含まれております。

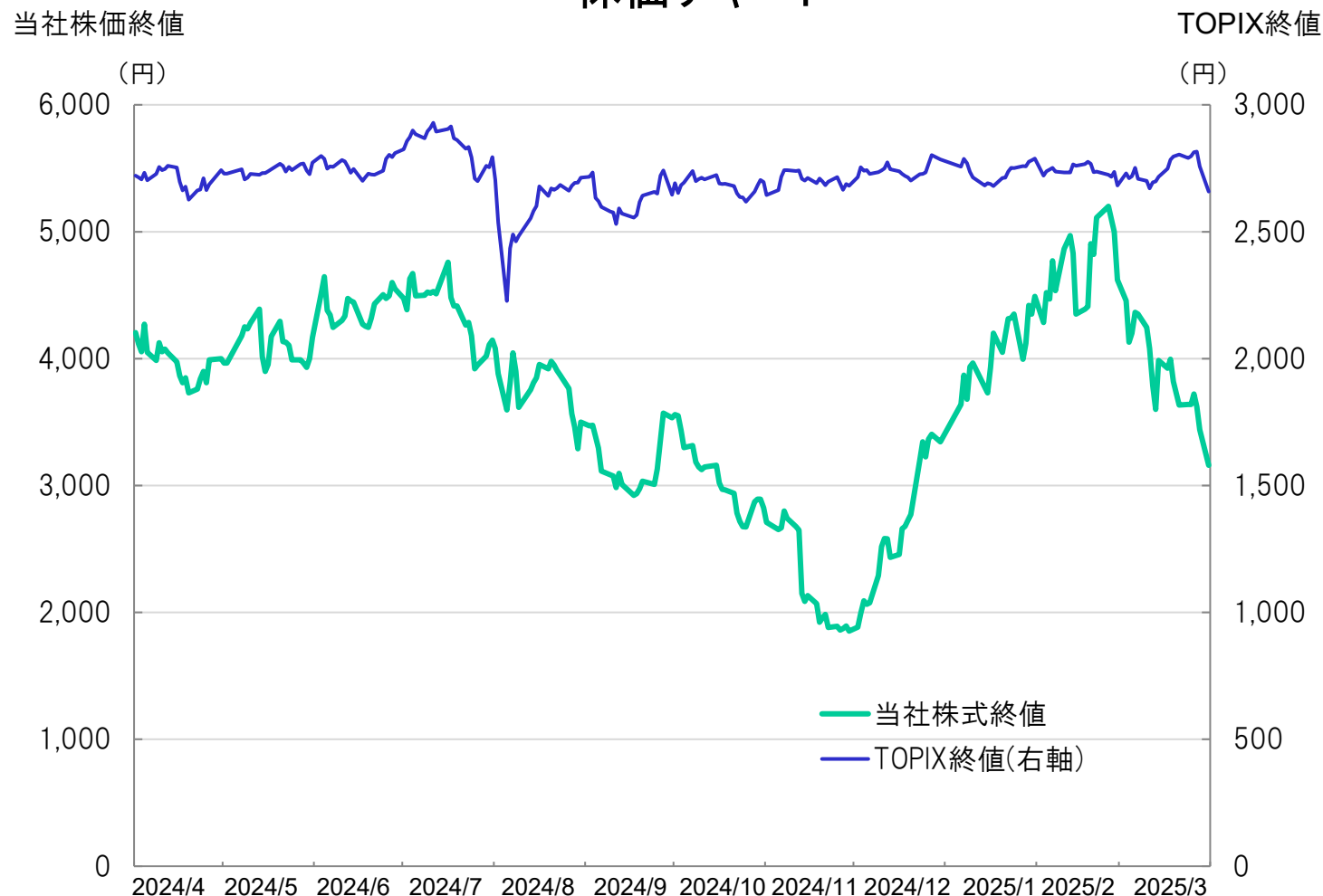
連結キャッシュ・フロー計算

(百万円)

	FY 2020	FY 2021	FY 2022	FY 2023	FY 2024
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,555	9,881	10,850	12,728	7,516
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,230	▲4,703	▲8,663	▲5,950	1,480
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲6,561	▲6,663	▲1,599	▲8,122	▲5,874
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲108	256	567	363	859
現金及び現金同等物の増（▲減）額	1,654	▲1,229	1,154	▲980	3,981
現金及び現金同等物の期末残高	19,996	18,767	19,921	18,941	22,923

株価推移

株価チャート



■発行済株式数:
96,315,400株 (2025年3月31日現在)

■株主数:
7,660人 (2025年3月31日現在)

■時価総額:
299,895,088,440円 (2025年3月31日現在)

(注) TOPIXとは、東京証券取引所に上場する銘柄を対象として算出・公表されている株価指数

(株)ハーモニック・ドライブ・システムズは東京証券取引所スタンダード市場に上場しています。

株式会社 **ハーモニック・ドライブ・システムズ**

Investors' Guide FY 2024

Year ended March 31, 2025

補足資料

本資料の予想は、当社経営者の判断に基づくものであり、事業環境の変動等のリスクや不確定要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、これら見通しと大きく異なる結果となる場合がありますことをご了承願います。

2025年11月19日

2025年度の見通し

2025年度の見通し

2025年度の当社グループの事業環境は、労働人口減少を補うためのロボットをはじめとする自動化投資の拡大、データセンターの拡充及び生成AIに必要な先端半導体の需要拡大に伴う設備投資増等により、前期に引き続き受注が回復基調になると見込んでいます。しかしながら、国際情勢の不安定化による資源・原材料価格の高止まり、為替相場の変動に加えてトランプ関税により、世界経済は一層不透明感が増し、当社グループを取り巻く事業環境は予断を許さない状況が続くものと予想されます。

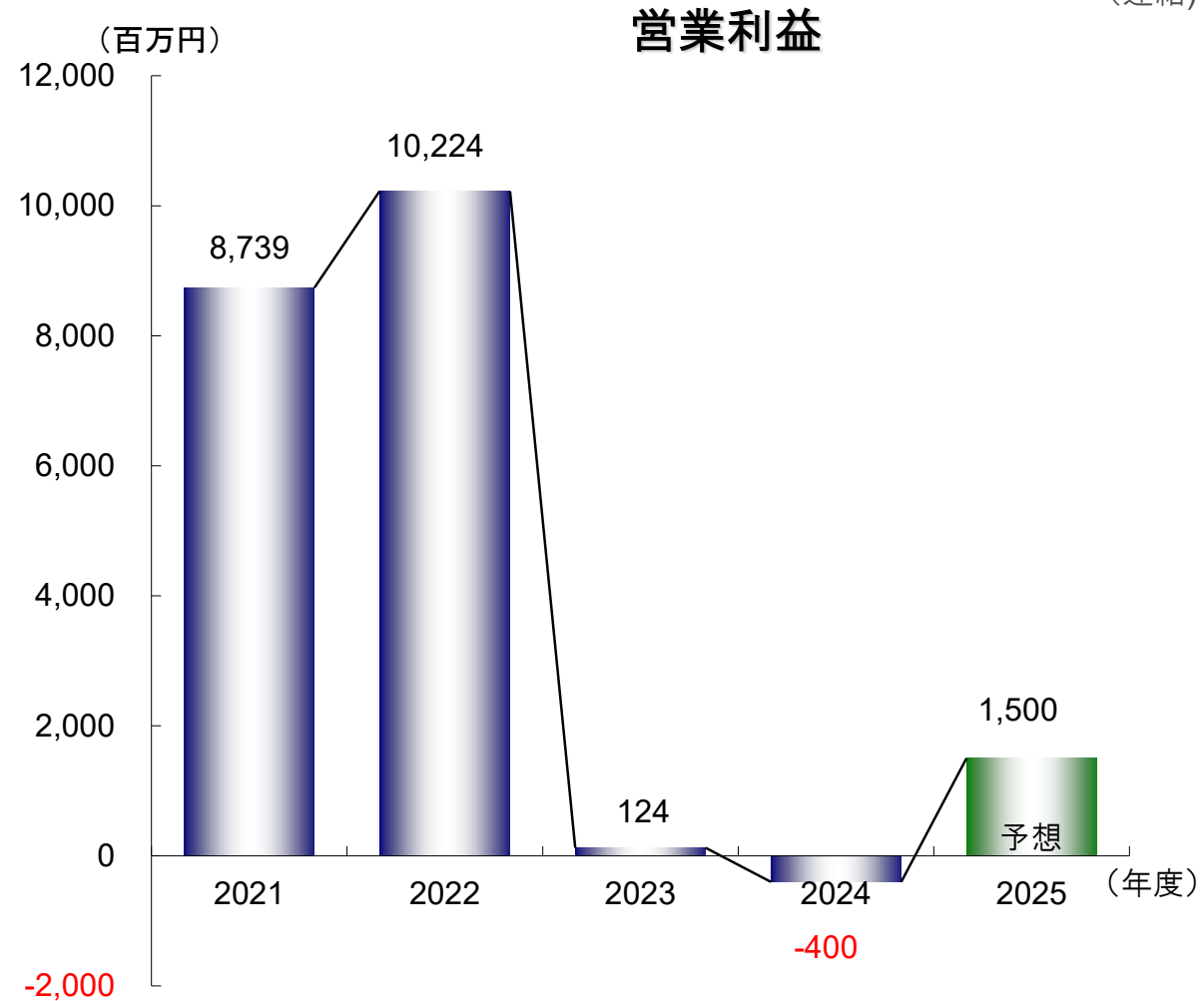
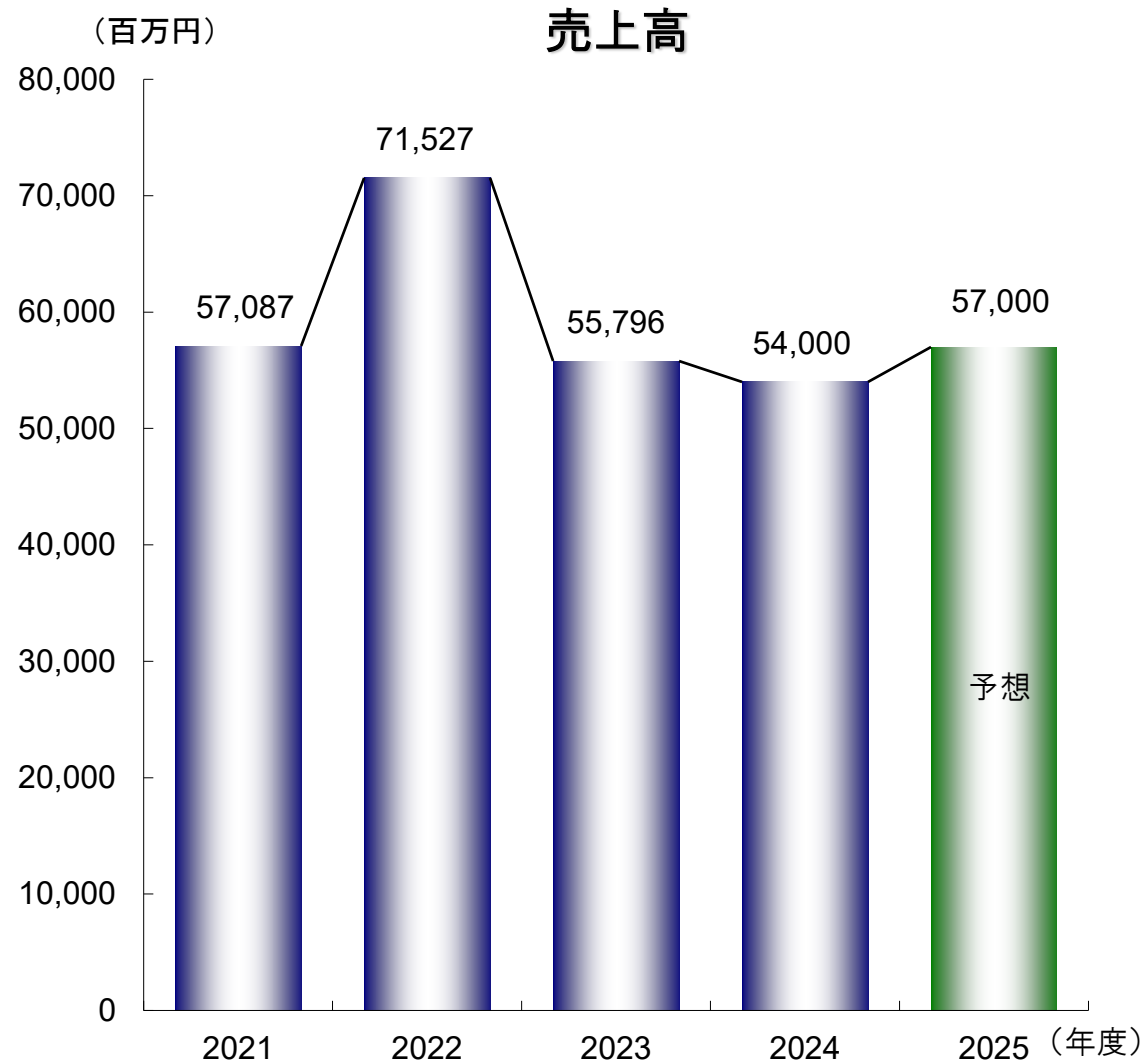
これら事業環境に対応すべく、現中期経営計画(2024年度～2026年度)の施策を着実に推進してまいります。高い生産能力と品質の維持、サプライチェーン体制の強化による安定した部材調達、並びにITの積極投資による生産性向上と業務効率の改善をさらに加速させることで、一層の製品力の向上、コスト低減、リードタイム短縮に取り組んでまいります。

加えて、営業・開発技術一体によるお客様の課題解決力向上と対応の迅速化を推進し、さらなる競争優位性の拡大に傾注してまいります。

2026年3月期の連結業績につきましては、上記の事業環境を前提に、売上高570億円、営業利益15億円、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益13億円を予想しております。

2025年度業績予想① 売上高、営業利益

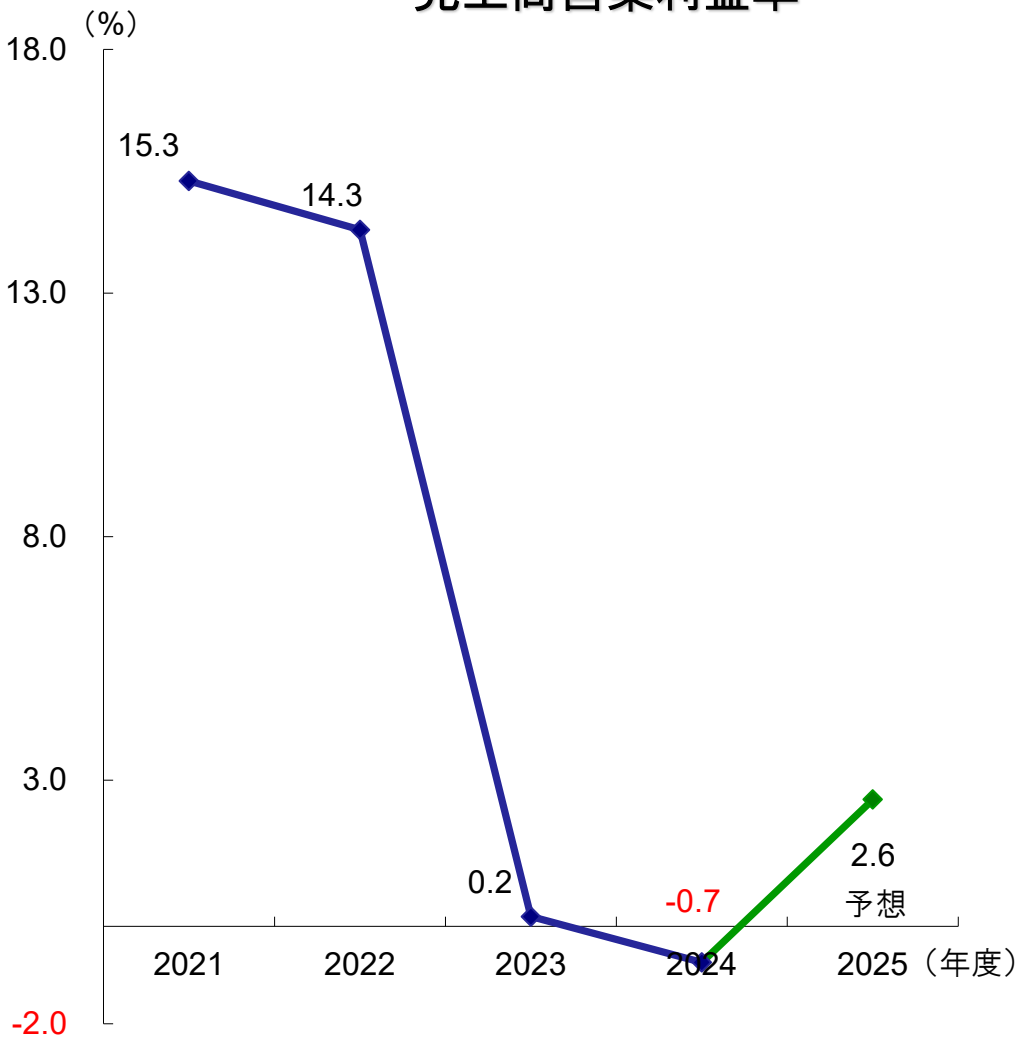
(連結)



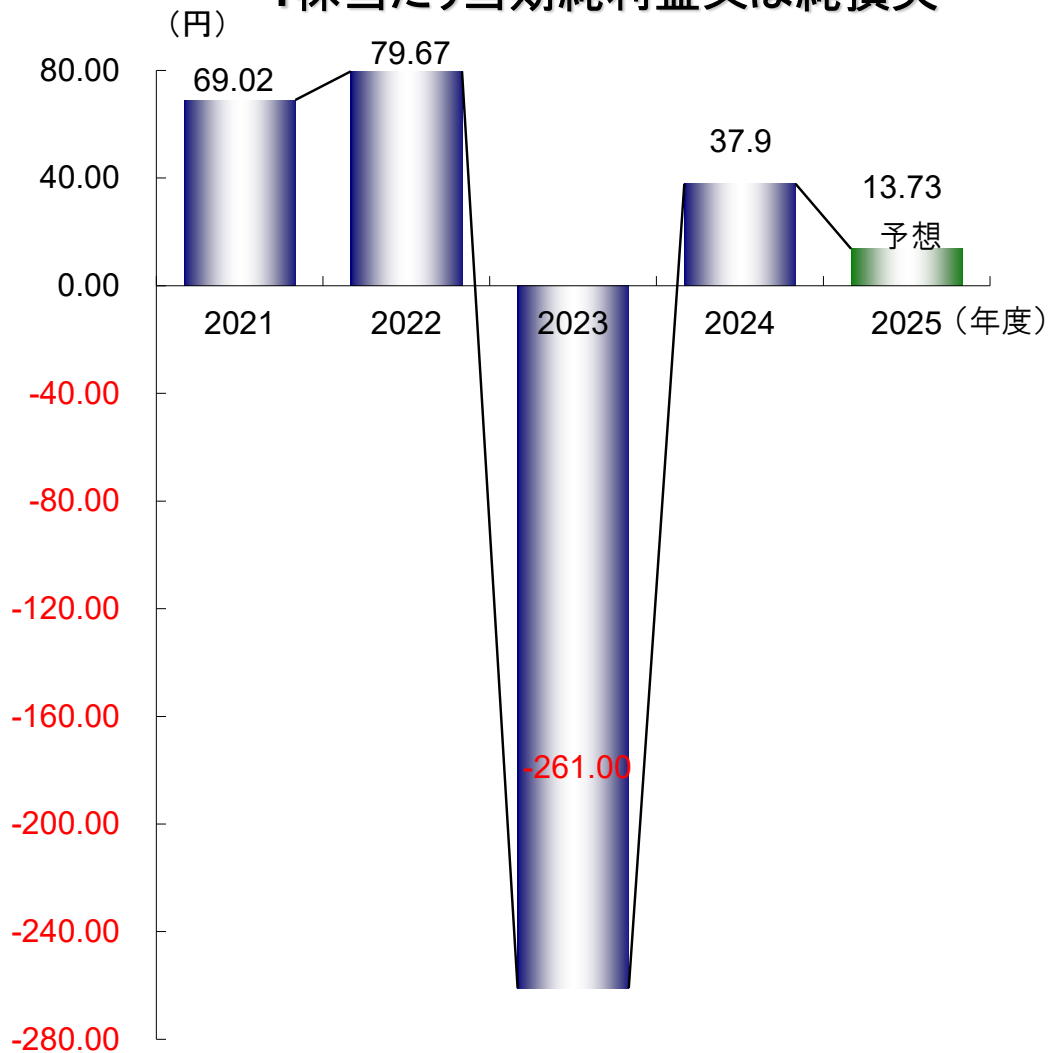
2025年度業績予想② 売上高営業利益率、1株当たり当期純利益又は純損失

(連結)

売上高営業利益率



1株当たり当期純利益又は純損失

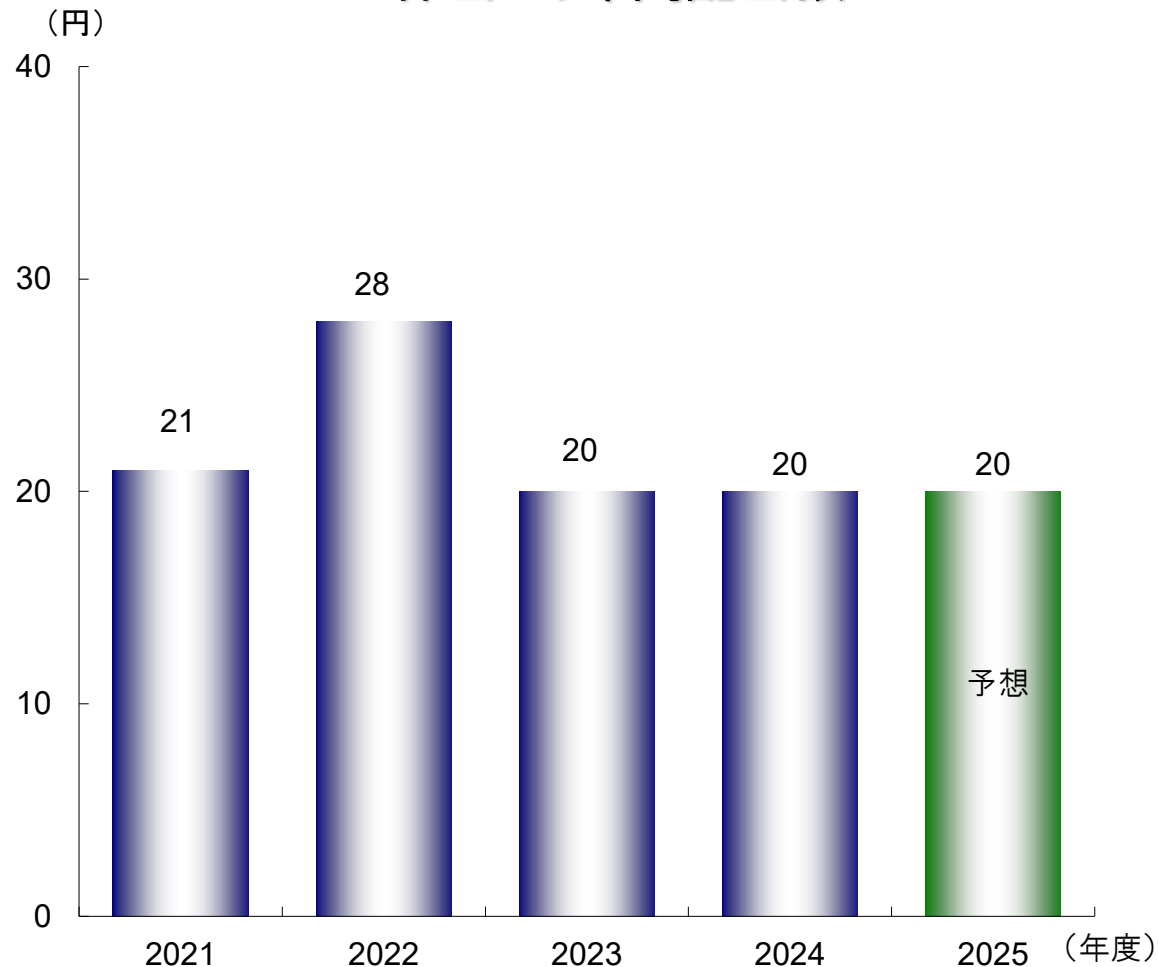


※2023年度の親会社株主に帰属する当期純損失には、連結子会社ハーモニック・ドライブ・エスイーに係る無形固定資産の減損損失28,159百万円が含まれております。

2025年度業績予想③ 1株当たり年間配当額



1株当たり年間配当額



利益配分に関する基本方針

当社は、業績に応じた利益配分を基本方針とする。

■ 配当

- 年間配当性を親会社株主に帰属する当期純利益の30%を基本方針とする。
- ただし、配当の継続や内部留保の充実などを総合的に勘案し、株主の皆様への利益還元を決定する。
- 配当の決定機関は、中間配当が取締役会、期末配当は株主総会とする。

■ 内部留保

- 将来の事業展開のため、主に「新製品の開発研究」、「生産設備の充実」、「情報管理システムの整備」に投資する。
- 機動的な資本政策の遂行に備える。

株式会社 ハーモニック・ドライブ・システムズ

— — — — —

Business Activity — Products

Leadership in Total Motion Control

2025年11月19日

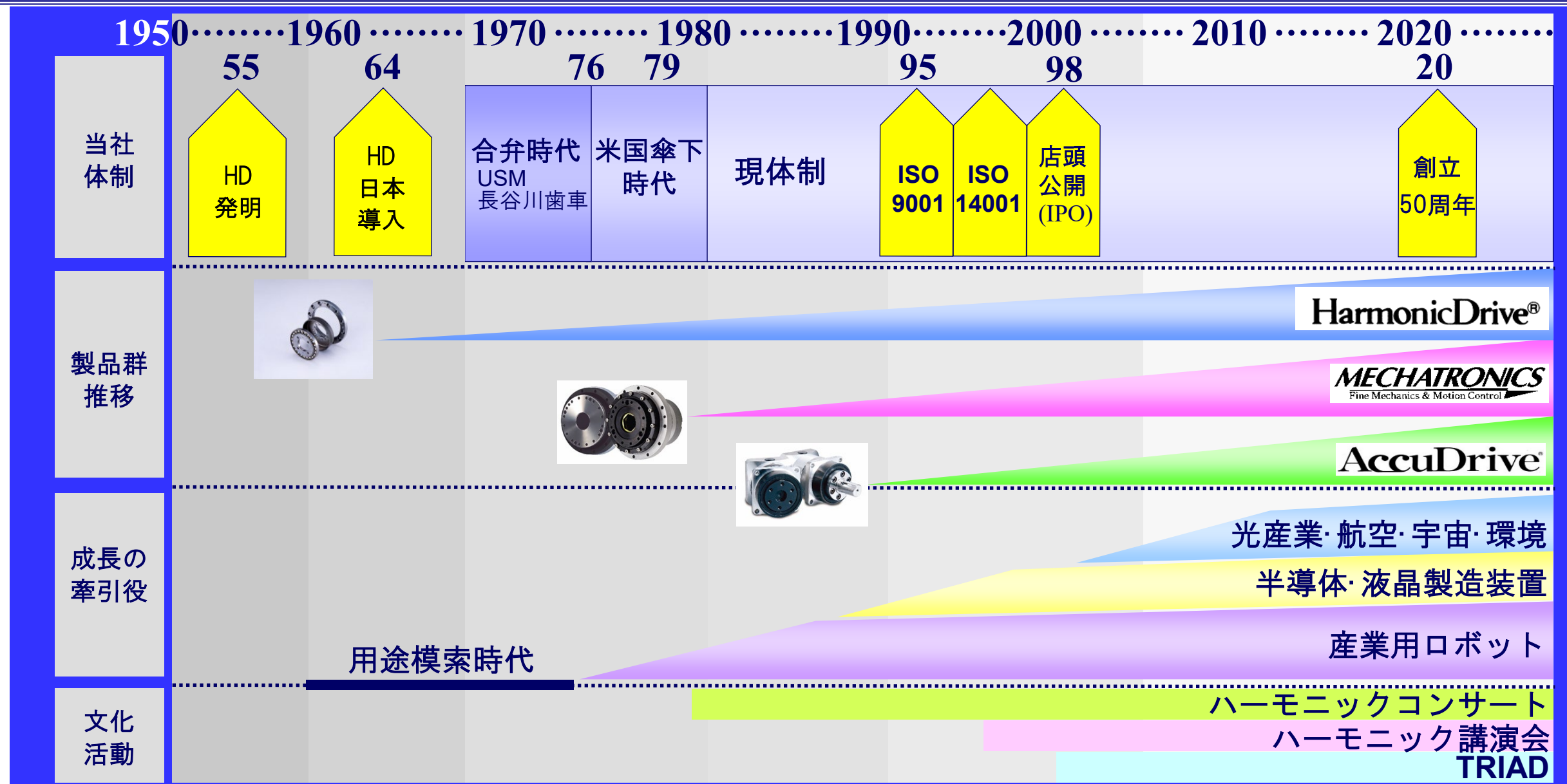
トータル・モーション・コントロール

当社グループの事業領域 ▶ トータル・モーション・コントロールをキーとした
精密制御分野を事業の核とする

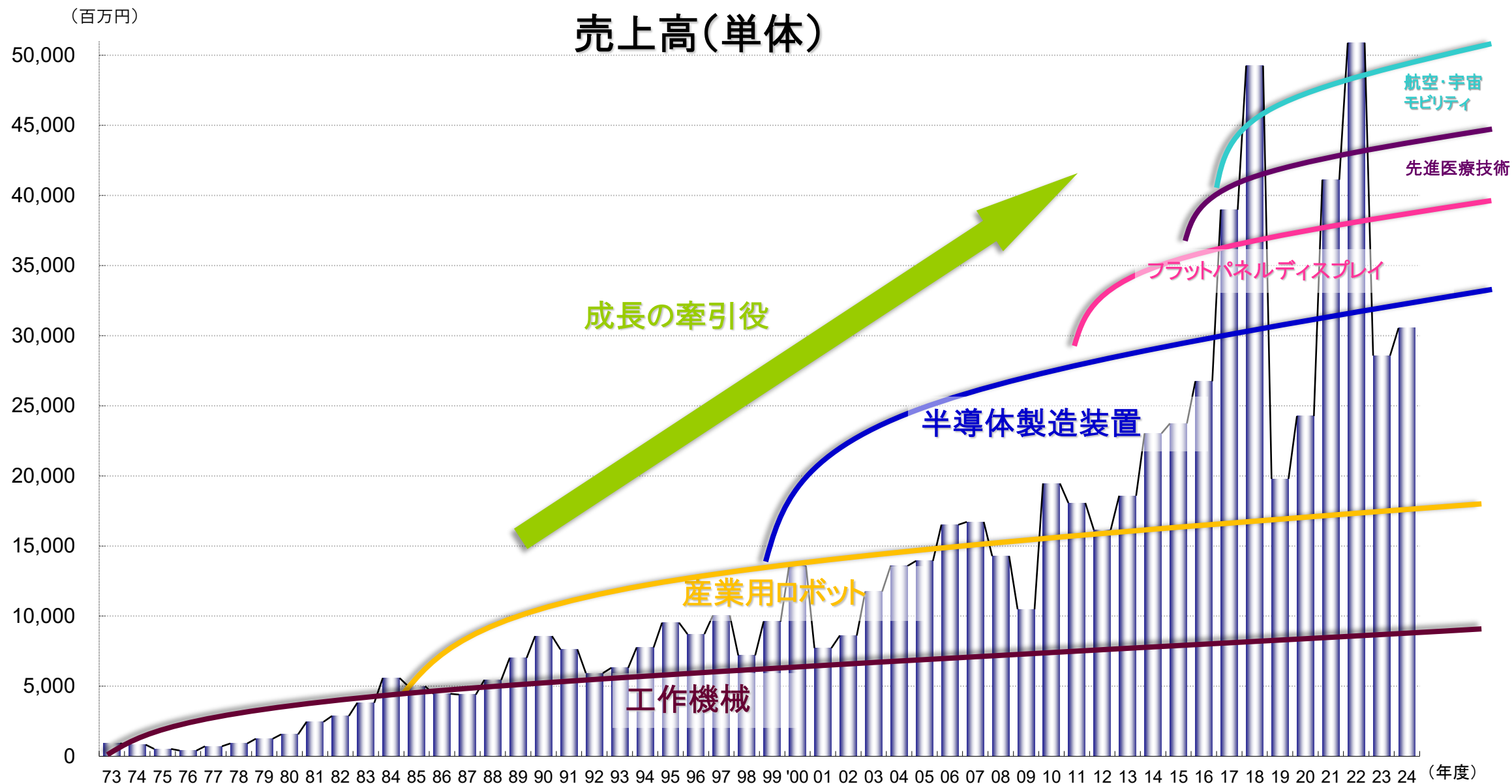
トータル・モーション・コントロールの概念図



沿革

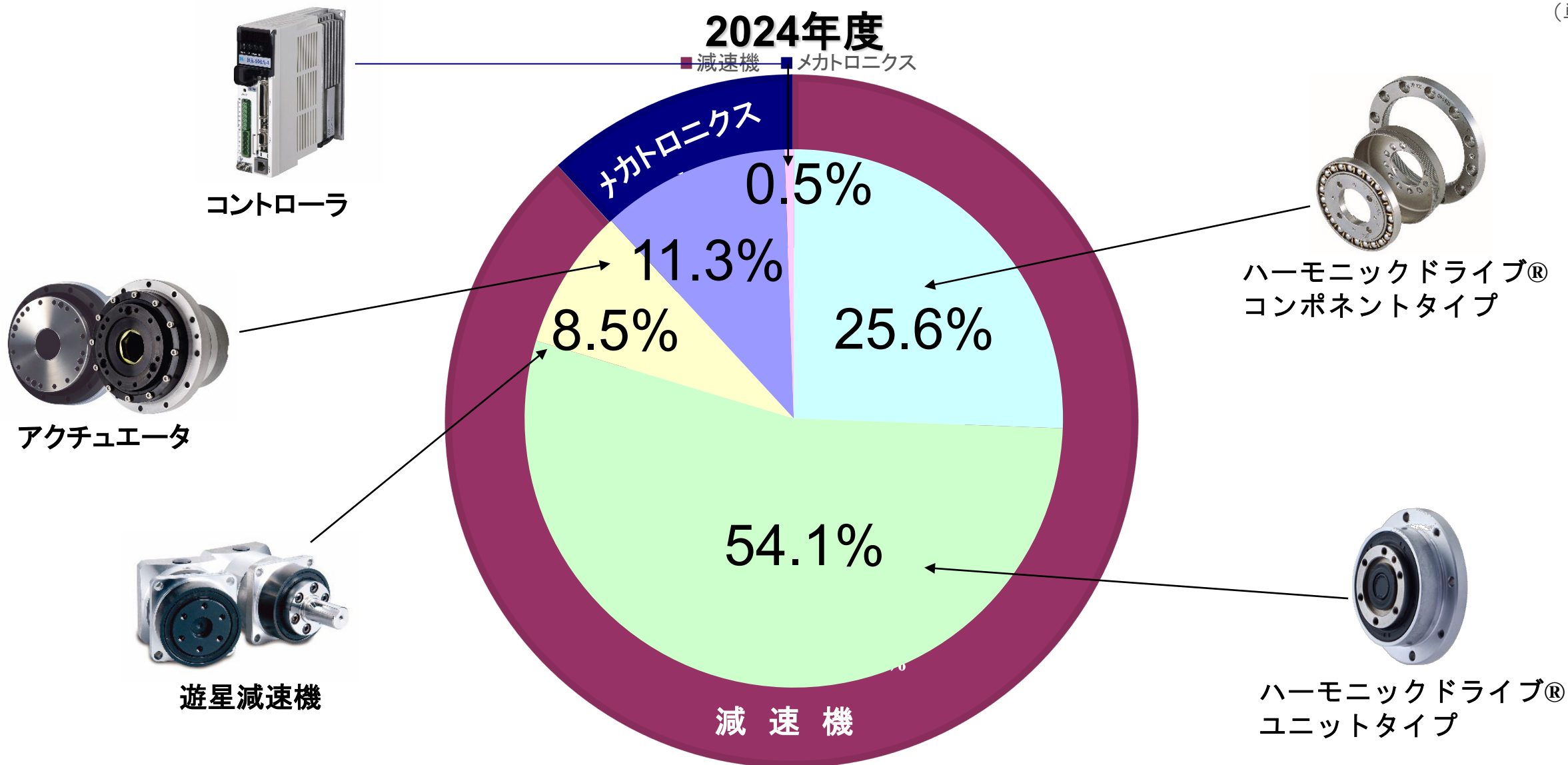


長期売上高の推移

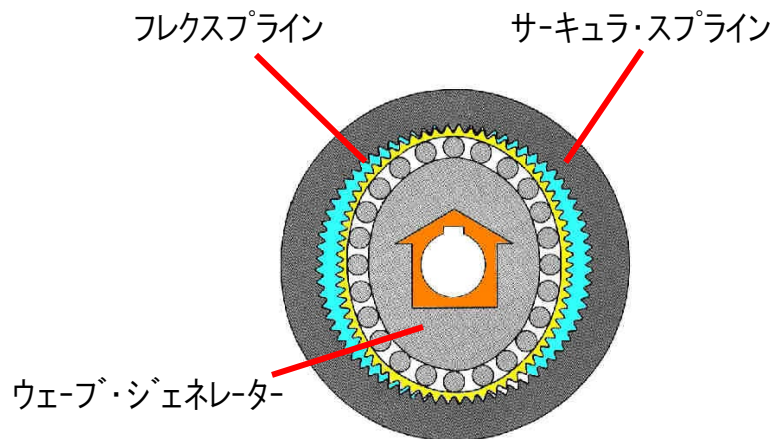


製品群別売上高比率

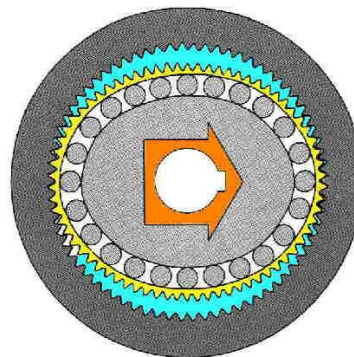
(単体)



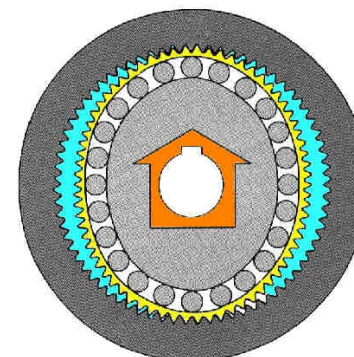
製品紹介 波動歯車装置「ハーモニックドライブ®」の動作原理と特長



フレクスプラインがウェーブ・ジェネレーターによって楕円状にたわめられると、歯は長軸ではサーキュラ・スプラインと噛み合い、短軸では完全に離れます。



ウェーブ・ジェネレーターを時計方向に回転させると、フレクスプラインは弾性変形し、サーキュラ・スプラインとの歯のかみあわせが移動していきます。



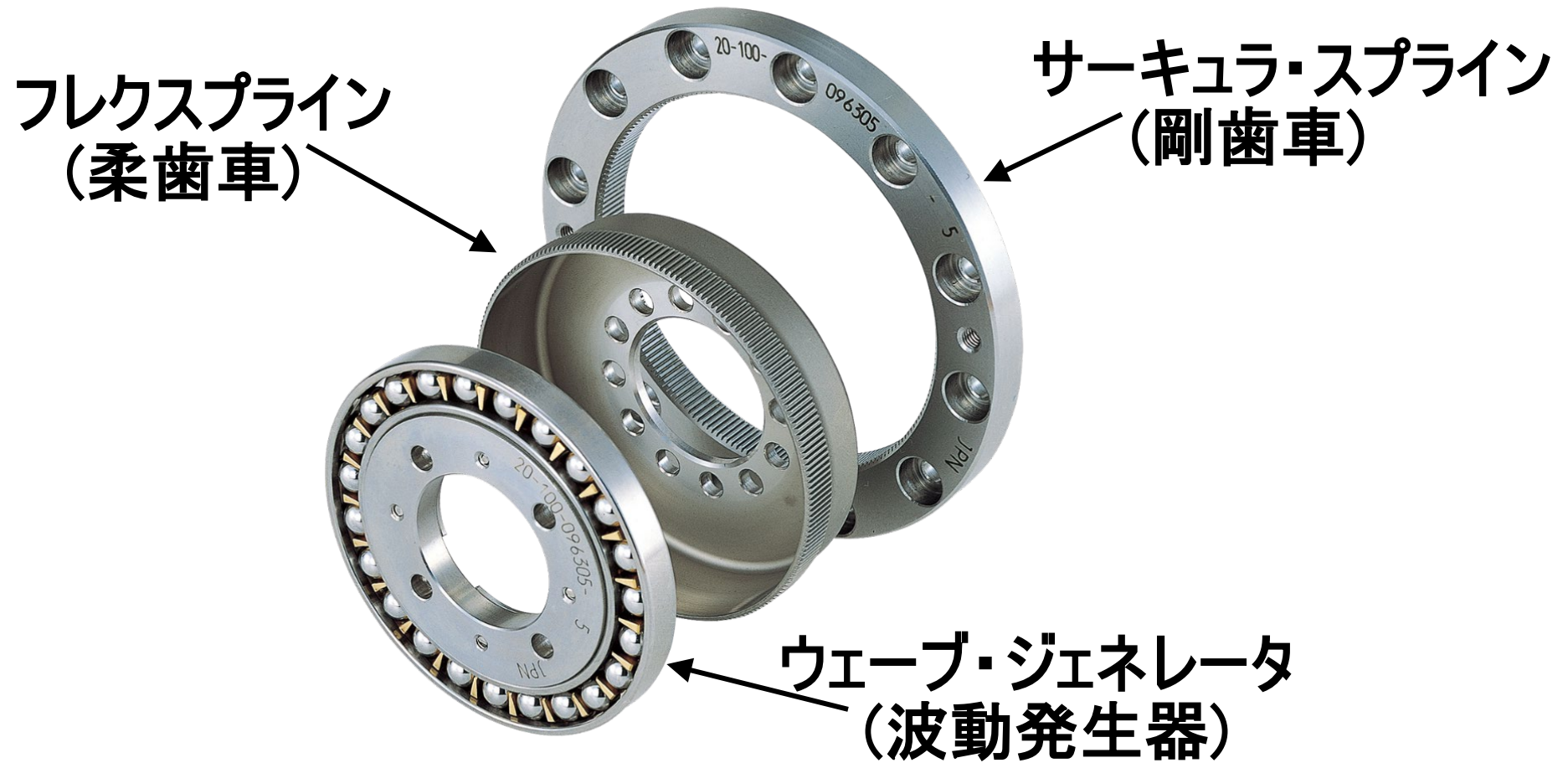
ウェーブ・ジェネレーターが1回転すると、フレクスプラインはサーキュラ・スプラインとの歯数差2枚分だけ、半時計方向へ移動します。

特 長

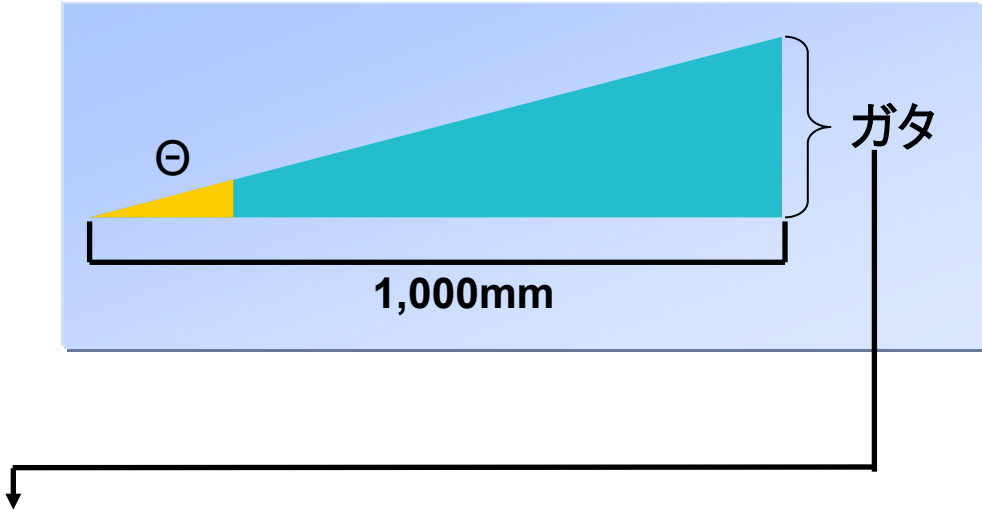
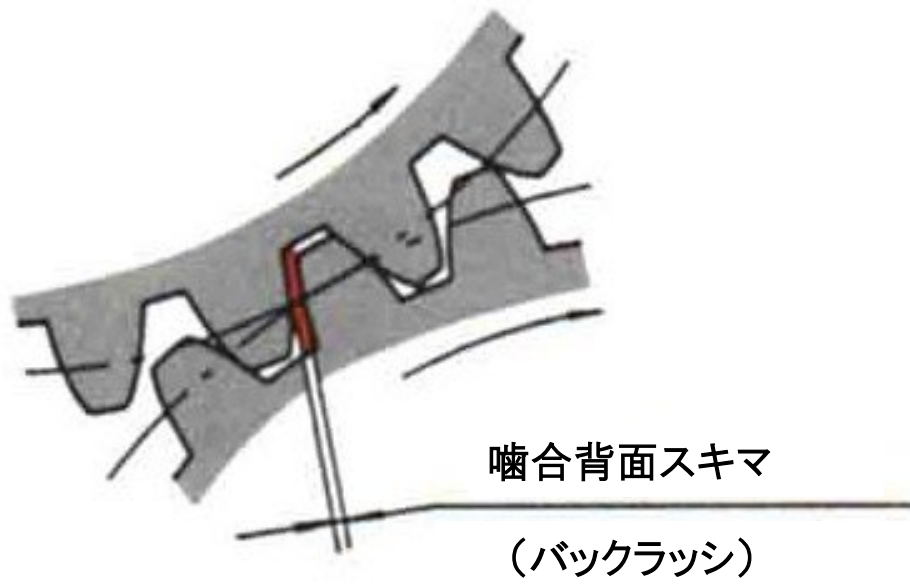
- 小型軽量
- ガタが無い
- 中空構造
- 一段で高い減速比
- 高効率
- 高トルク容量
- 高い位置決め精度と繰り返し位置再現性
- 高い剛性
- 取り付け、組み立てが容易
- 静かでスムーズな動作

強み「小型・軽量」

わずか3点の部品で構成 ➡ 小型・軽量



強み「ノンバックラッシ」



用 途	バックラッシ	1m先端でのガタ	当 社 製 品
一般産業機械	0.5度	8.7mm	なし
搬送・加工装置	0.05～0.25度	0.9mm～4.3mm	AccuDrive® HarmonicPlanetary®
ロボット・半導体装置	0～0.02度	0～0.3mm	HarmonicDrive®

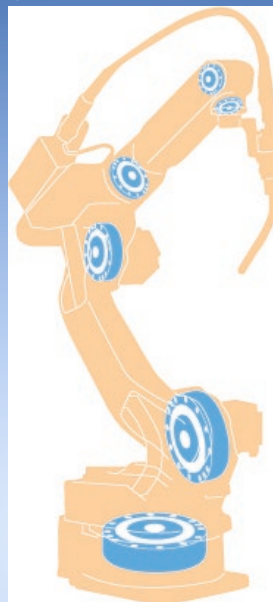
用途例

はやぶさ1、2

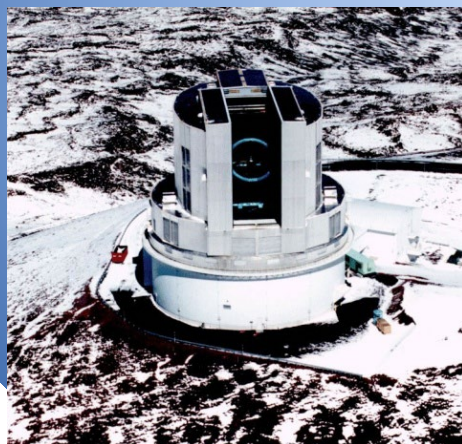
宇宙航空研究開発機構(JAXA)様提供



産業用ロボット



eVTOL



ハワイ島マウナケア山の大型 光学赤外線望遠鏡「すばる」

大学共同利用機関法人国立天文台様提供



協働ロボット

Techman Robot Inc.社様提供



手術用ロボット

製品ポジションのイメージ図

